ESET Endpoint Security V13.X /
ESET Endpoint アンチウイルス V13.X /
ESET Server Security for Microsoft Windows Server V12.X
機能紹介資料

第10版
2026年4月15日

Canon

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

もくじ

1. はじめに

1-1. 本資料について

本資料はWindowsクライアント用プログラムの機能を紹介した資料です。

プログラム名	種別	アイコン
ESET Endpoint Security V13.X (略称表記：EES)	Windows クライアント用 総合セキュリティプログラム	EES
ESET Endpoint アンチウイルス V13.X (略称表記：EEA)	Windows クライアント用 ウイルス・スパイウェア対策プログラム	EEA
ESET Server Security for Microsoft Windows Server V12.X (略称表記：ESSW)	Windows サーバー用 ウイルス・スパイウェア対策プログラム	ESSW

・本資料で使用しているESET製品の画面イメージは使用するバージョンにより異なる場合があります。
また、今後画面イメージや文言が変更される可能性がございます。

・上記のプログラムはオンプレミス型セキュリティ管理ツールであるESET PROTECT on-prem(略称表記：EP on-prem)とクラウド型セキュリティ管理ツールである ESET PROTECT(略称表記：EP)で管理が可能です。EP on-premとEPの機能紹介は別資料でご用意しています。

・ESET PROTECTソリューションではMac、Linux、Android OS向けのプログラムもご使用いただけます。各プログラムの機能紹介は別資料でご用意しています。

1-1. 本資料について

機能名を記載しております。

紹介されている機能がどのプログラムに搭載されているかをアイコンで表しております。

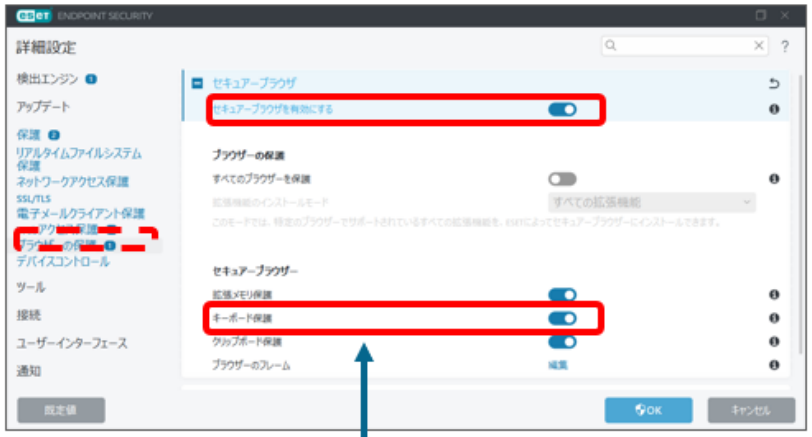
EES

2-2-25. セキュアブラウザー

コンピューターで実行中の他のプロセスからWebブラウザーを保護します。ブラウザーのメモリ空間やブラウザーウィンドウの内容が改ざんされることを防止します。また、すべてのWebサイトをセキュアブラウザーで保護します。

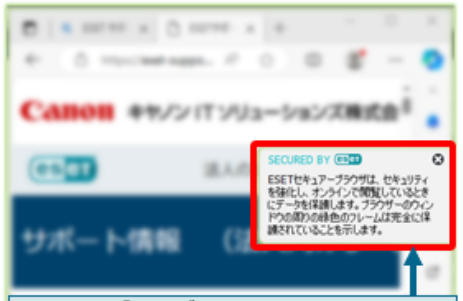
※セキュアブラウザーはESET Endpoint Security でのみご使用いただけます。

詳細設定(セキュアブラウザー画面)



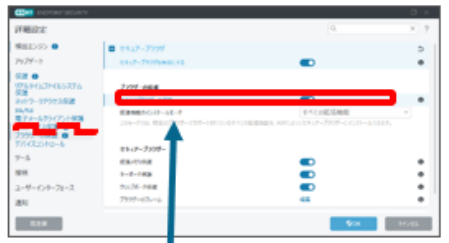
「キーボード保護」
セキュアブラウザーにキーボードから入力した情報は他のアプリケーションから隠すことができます。これにより、キーロガーに対する保護が強化されます。

セキュアブラウザー(例)



セキュアブラウザ利用中は緑色のフレームで囲まれます。セキュアブラウザの説明ポップアップが表示されます。
※EES V9.1以降、緑色のフレームを消すことも可能です。

詳細設定(セキュアブラウザー画面)



「すべてのブラウザーを保護」
有効にするとすべてのWebサイトをセキュアブラウザーで保護します。

機能についての説明と機能に関する画像を掲載しております。

Canon Marketing Japan Inc. 38

1-2. 本プログラムの特徴

ESETでは、エンドポイントでの多層防御を実装しております。これにより新種の脅威からの防御を強化しております。
各防御機能の紹介は以降のページをご参照ください。

巧妙化する脅威から守る「多層防御」

ESET製品は、攻撃の手法に合わせた検出技術を多数有しています。マルウェア(ウイルス)の起動時だけではなく、
その前後も含めた適切なタイミングでその検出技術を駆使することで、高度化・巧妙化する脅威に対抗します。
例えば、ランサムウェアにはランサムウェア保護で、脆弱性を狙う攻撃にはバルナラビリティシールドなどで対抗します。

2. ESET Endpoint Security V13.X / ESET Endpoint アンチウイルス V13.X / ESET Server Security for Microsoft Windows Server V12.Xの機能紹介

2-1. ユーザーインターフェースについて

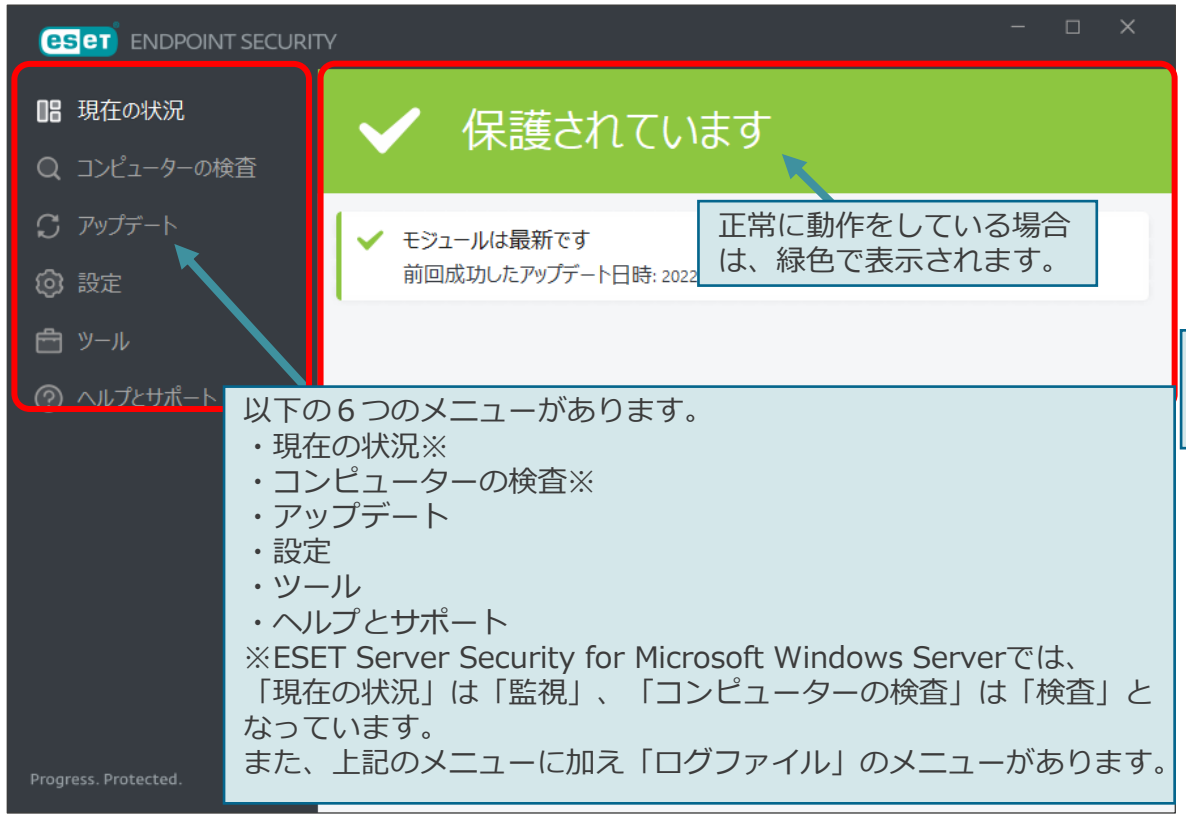
2-1-1. ユーザーインターフェース

EES
EEA
ESSW

Cybersecurity
Progress. Protected.

ユーザーインターフェースの左側の各メニューを選択することで、現在の保護状態の確認やコンピューターの検査、ESET製品の設定変更を行うことが可能です。

ユーザーインターフェース(現在の状況)



正常に動作をしている場合は、緑色で表示されます。

以下の６つのメニューがあります。
・現在の状況※
・コンピューターの検査※
・アップデート
・設定
・ツール
・ヘルプとサポート
※ESET Server Security for Microsoft Windows Serverでは、「現在の状況」は「監視」、「コンピューターの検査」は「検査」となっています。
また、上記のメニューに加え「ログファイル」のメニューがあります。

注意が必要な場合は黄色、重大な問題がある場合は赤色で表示されます。

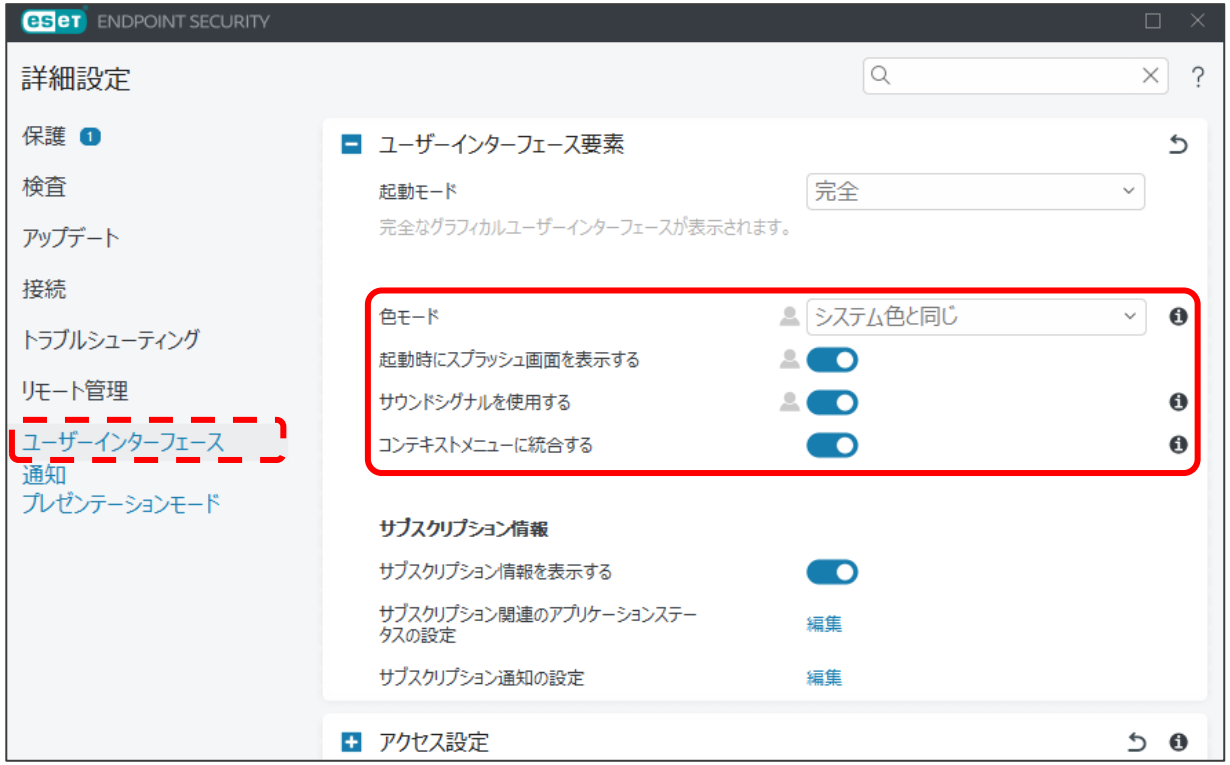
2-1-2. ユーザーインターフェース要素

EES
EEA
ESSW

Cybersecurity
Progress. Protected.

色モードが設定可能となり、ユーザーインターフェースの配色の設定を、システム色と同じ/暗い/明るいから変更可能となりました。

詳細設定(ユーザーインターフェース画面)



色モード(明るい)

色モード(暗い)

2-1-3. コンピューターの検査

EES
EEA
ESSW

Cybersecurity
Progress. Protected.

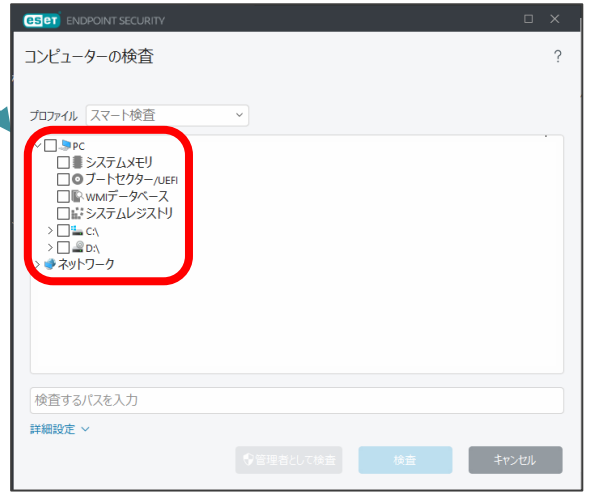
コンピューターの検査では、コンピューターのウイルス検査を実施し、コンピューター内部に潜んでいるウイルスを検知して、駆除することが可能です。定期的にウイルス検査を実施することで、セキュリティレベルを保つことが可能です。
ファイルやフォルダ、システムメモリだけではなく、WMIデータベースやシステムレジストリを検査することも可能です。

ユーザーインターフェース(コンピューターの検査)

「コンピューターの検査」
検査方法や検査対象などウイルス検査の詳細な設定を行うことなくワンクリックでウイルス検査を行うことが可能です。
※ESET Server Security for Microsoft Windows Serverでは、「ストレージ検査」と「OneDrive検査」の項目があります。

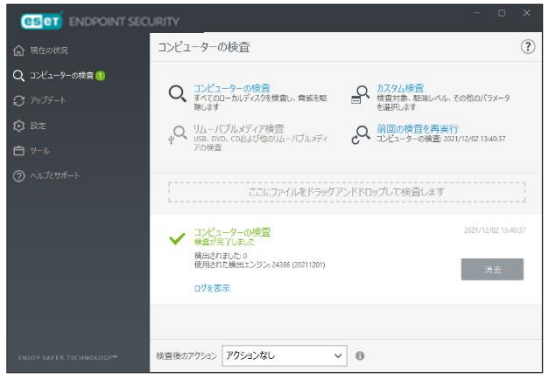
「ドラッグアンドドロップ機能」
検査を行いたいファイルやフォルダをユーザーインターフェース上にドラッグアンドドロップをすることで検査が可能です。

カスタム検査の設定画面



コンピューターの検査中の画面

コンピューターの検査完了の画面



2-1-4. アップデート

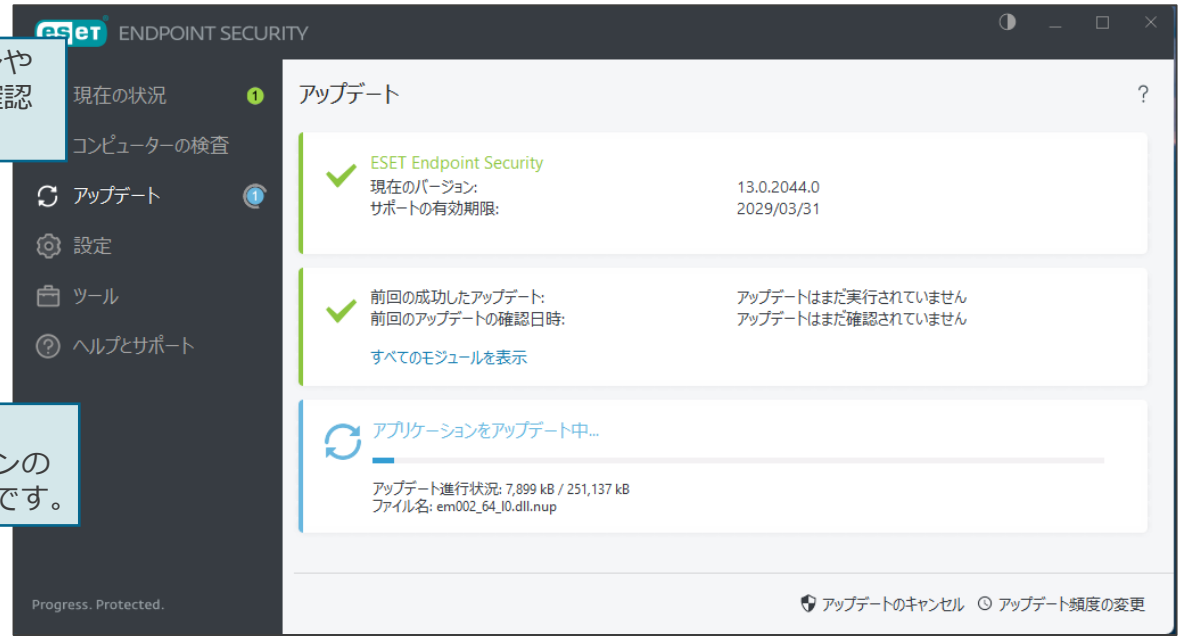
EES
EEA
ESSW

Cybersecurity
Progress. Protected.

アップデートでは、ウイルス検査で使用される検出エンジンのアップデートを行うことが可能です。新しいウイルスが日々発生しているため、検出エンジンを常に最新にしておくことで、新たな脅威からコンピューターを保護することが可能です。

ユーザーインターフェース(アップデート)

アップデート中の画面



※検出エンジン
ESET特有の表現方法で、ウイルスを検知するための過去に発見された各ウイルスに関する情報をまとめたデータベースのことを意味します。一般的にはウイルスパターンファイルやウイルス定義ファイル、シグネチャファイルなどと呼ばれております。

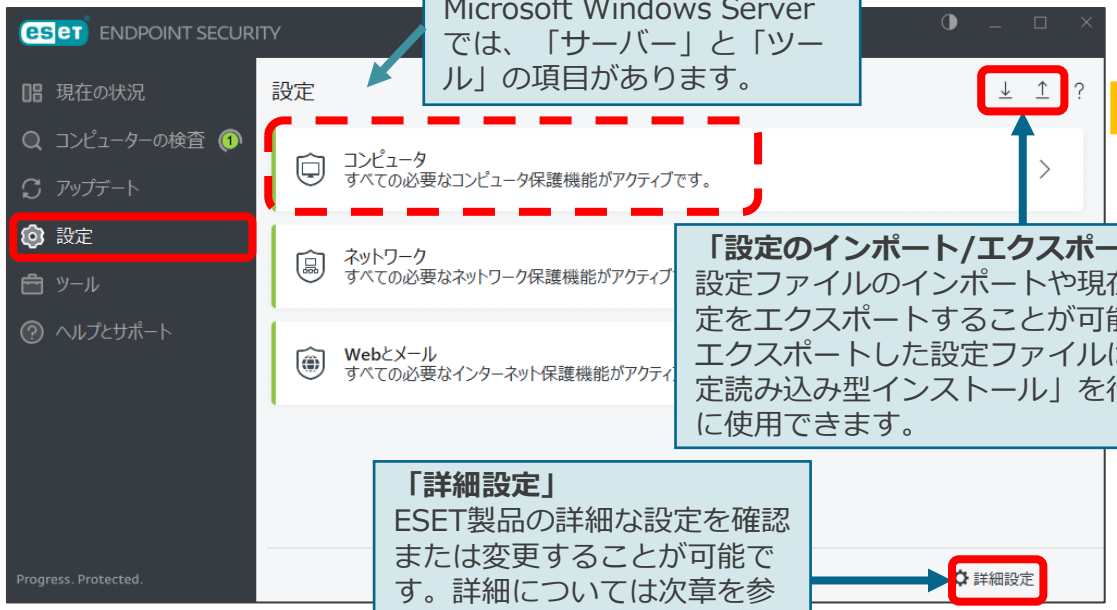
2-1-5. 設定

EES
EEA
ESSW

ESETのウイルス・スパイウェア対策プログラムの設定の確認と変更をすることが可能です。また業務を行う上で一時的にESETの保護機能を変更させたい場合は、ユーザーインターフェースから設定を一時的に有効や無効にすることが可能です。

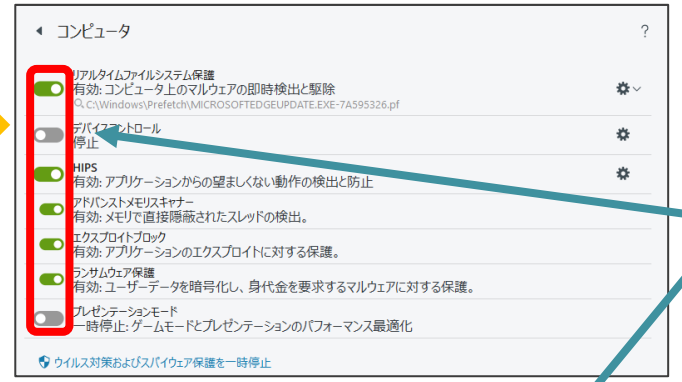
ユーザーインターフェース(設定)

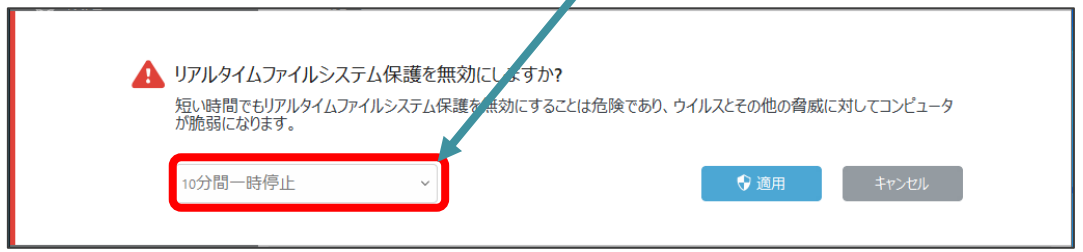
※ESET Server Security for Microsoft Windows Serverでは、「サーバー」と「ツール」の項目があります。



「設定のインポート/エクスポート」
設定ファイルのインポートや現在の設定をエクスポートすることが可能です。エクスポートした設定ファイルは「設定読み込み型インストール」を行う際に使用できます。

「詳細設定」
ESET製品の詳細な設定を確認または変更することが可能です。詳細については次章を参考にしてください。





ウイルス対策機能を一時的に無効にすることが可能です。また、一時停止する時間も指定することが可能です。

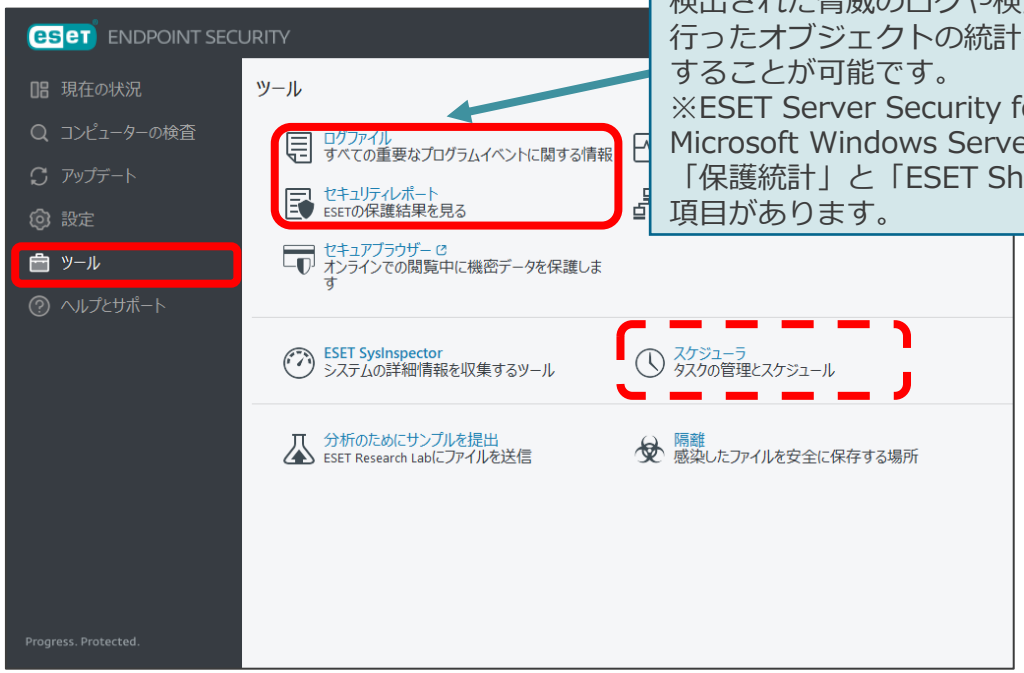
※設定読み込み型インストール
事前にエクスポートした設定ファイルをインストールを行う過程で読み込みながらインストールを行います。詳しい手順については、下記サポートページをご覧下さい。
https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/20?&site_domain=business

2-1-6. スケジューラ

EES
EEA
ESSW

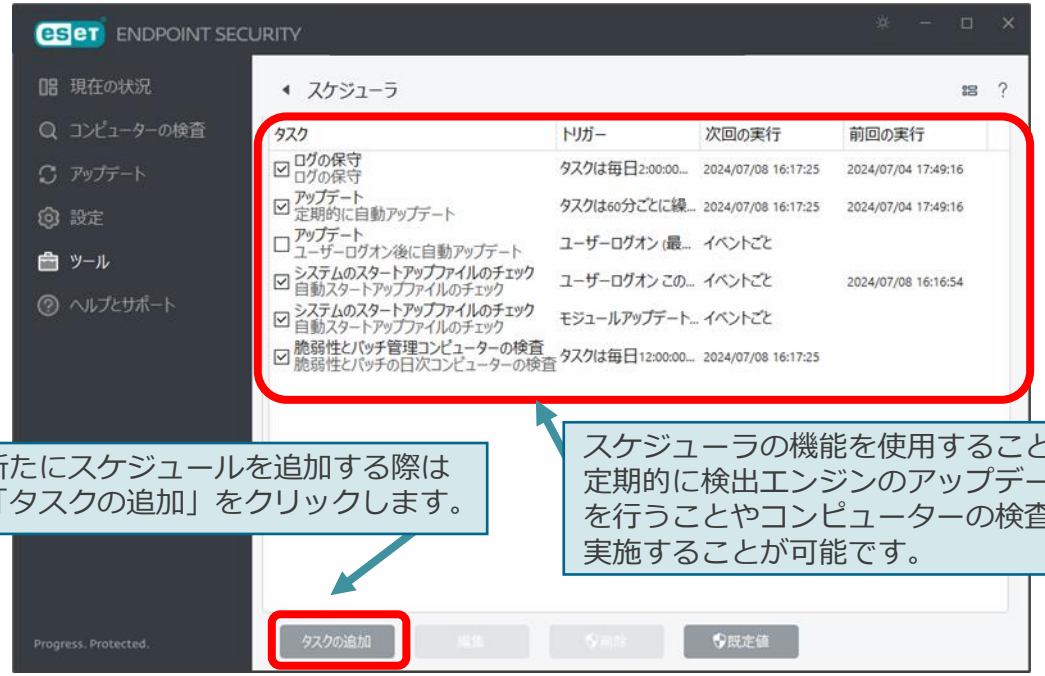
ツールのスケジューラを使用することで、検出エンジンのアップデートやコンピューターの検査を定期的に実行することが可能です。これにより、自動的にアップデートや検査が実施されるため、ユーザーが意識することなく、セキュリティをより強固にすることが可能です。

ユーザーインターフェース(ツール)



検出された脅威のログや検査を行ったオブジェクトの統計を確認することが可能です。
※ESET Server Security for Microsoft Windows Serverでは、「保護統計」と「ESET Shell」の項目があります。

スケジューラ画面



新たにスケジュールを追加する際は「タスクの追加」をクリックします。

スケジューラの機能を使用することで定期的に検出エンジンのアップデートを行うことやコンピューターの検査を実施することが可能です。

2. ESET Endpoint Security V13.X/ ESET Endpoint アンチウイルス V13.X/ ESET Server Security for Microsoft Windows Server V12.Xの機能紹介
2-2. 詳細設定について

2-2-1. 保護

EES
EEA
ESSW

Cybersecurity
Progress. Protected.

保護の項目では、コンピューターのパフォーマンスを低下させる恐れのあるアプリケーションや不正利用される可能性のあるアプリケーションを検出させるかどうかを設定することなどが可能です。

「疑わしい可能性があるアプリケーション」
圧縮されたプログラムが含まれます。マルウェアの作成者が検知を逃れるためによく使用する方法です。

「安全ではない可能性があるアプリケーション」
リモートアクセスツールやパスワード解析ツールなど適正なアプリケーションではあるものの悪用される可能性もあるアプリケーションを検出します。

詳細設定(保護画面)

「望ましくない可能性があるアプリケーション」
アドウェアやツールバーをインストールするようなコンピューターのパフォーマンスに悪影響を与えるようなアプリケーションを検出します。

2-2-2. 機械学習保護

EES
EEA
ESSW

機械学習保護は、リアルタイムスキャンやオンデマンドスキャンでの検出に利用できます。
ESET独自の機械学習アルゴリズムを利用して、ESET社のクラウド環境に接続することなくローカル内で機械学習による、より高度な解析を実現します。

高度な機械学習モジュールを利用して、以下の検出の閾値を設定可能です。
・マルウェア(機械学習を利用)
・望ましくない可能性があるアプリケーション
・疑わしい可能性があるアプリケーション
・安全ではない可能性があるアプリケーション

「報告」では、検出時にログへの出力とデスクトップへの通知における閾値を設定できます。

「保護」は、検出時のブロックレベルの閾値になります。

詳細設定(保護画面)

閾値は**「最大」「標準」「最小」「オフ」**の4段階に設定できます。
報告と保護で閾値を分けることが可能なため、報告のみ「高度な機械学習モジュール」を利用するなど、誤検知のリスクを減らしながら運用することも可能です。
※保護の閾値を報告の閾値より大きい値に設定することはできません。

2-2-3. Antimalware Scan Interface(AMSI)保護

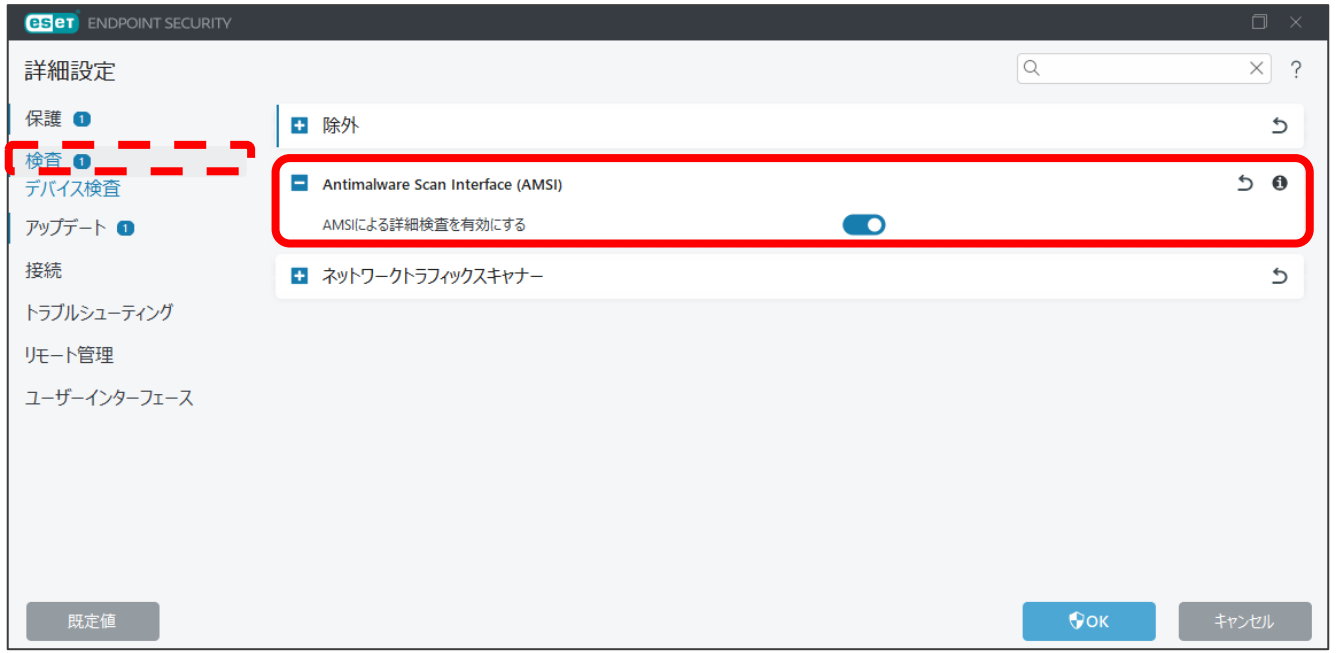
EES
EEA
ESSW

Cybersecurity
Progress. Protected.

WindowsのAntimalware Scan Interface(AMSI)との連携が可能です。AMSI保護を有効にすることでPowerShellでスクリプトが実行される前にESETで検査し、安全である場合のみ実行が可能となります。これにより、悪意のあるプログラムのインストールを行わないファイルレスマルウェア攻撃の検出が可能です。

※AMSI保護はWindows10以降、Windows Server 2016以降にて利用可能です。

詳細設定(検出エンジン画面)



※Antimalware Scan Interface(AMSI)
AMSIはWindows10から導入されたWindowsのマルウェア防御技術です。
AMSIはアンチマルウェアプログラムと連携して、PowerShellなどのスクリプト攻撃に対処します。詳しくはMicrosoft社にご確認ください。

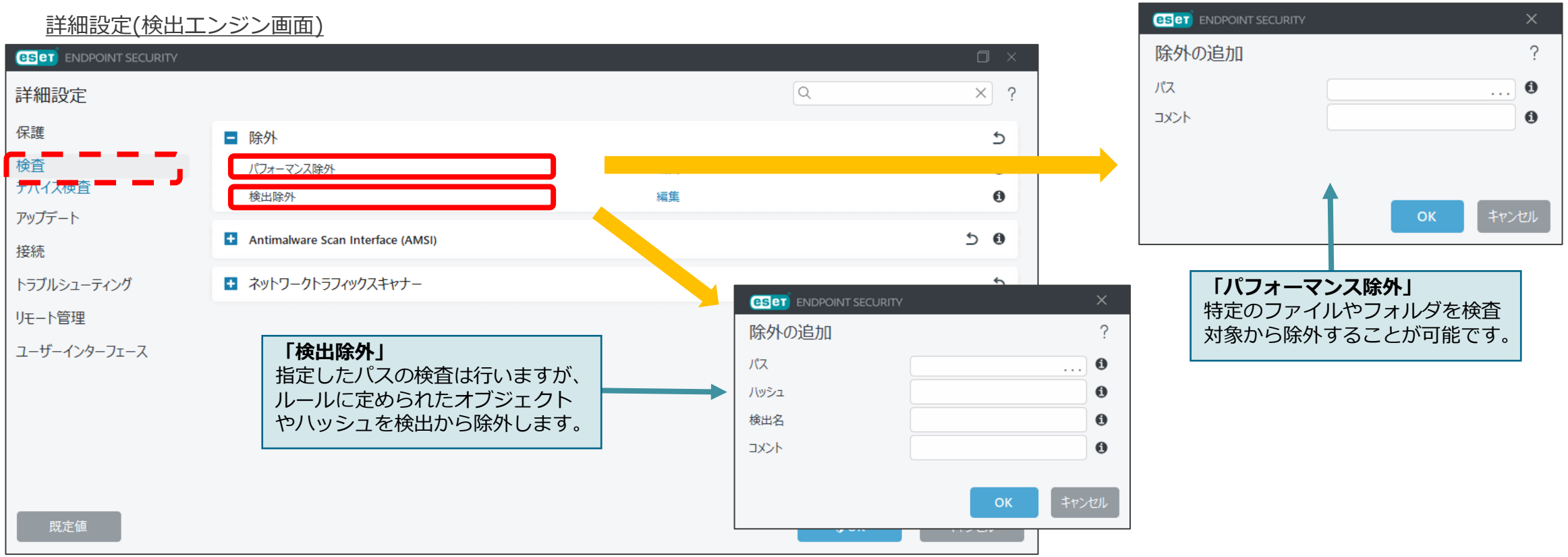
2-2-4. 除外

EES
EEA
ESSW

Cybersecurity
Progress. Protected.

除外の設定を行うことで、特定のファイルやフォルダをウイルス検査の対象から外すことが可能です。パス、ハッシュ値、検出名で除外設定を行えます。独自開発したアプリケーションやデータベースなどを除外の対象とすることで、誤検知やデータベースなどを検査した際のCPU使用率の上昇を防ぐことが可能です。

詳細設定(検出エンジン画面)

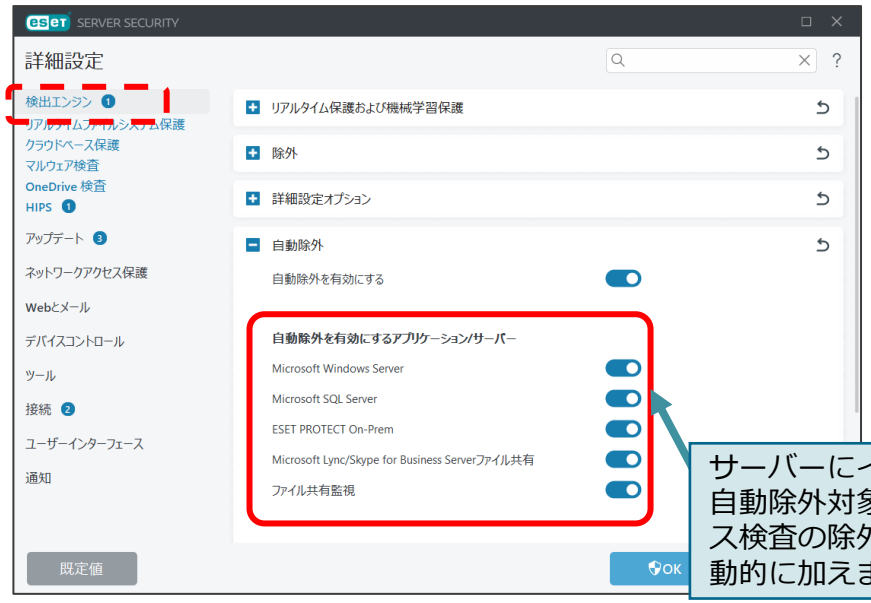


2-2-5. 自動除外

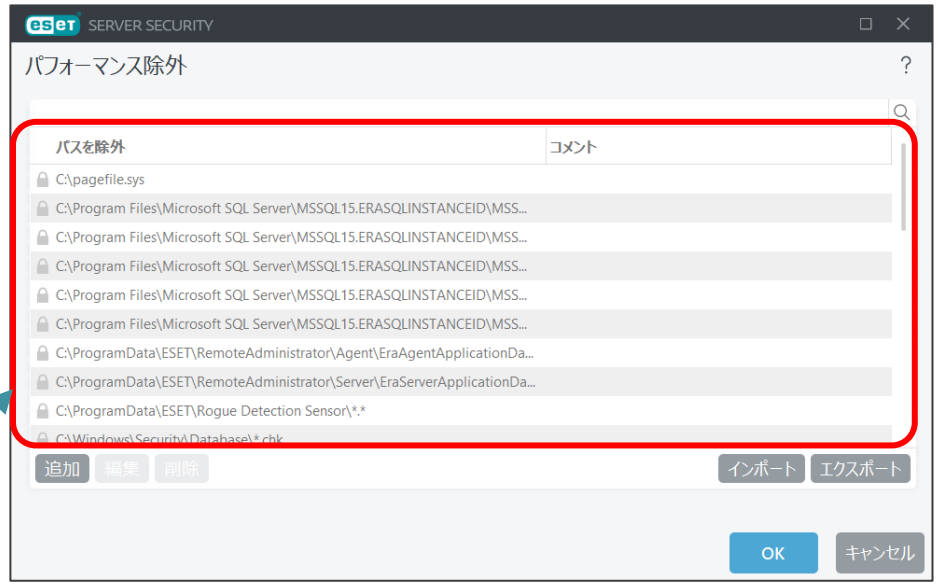
ESSW

ESET Server Security for Microsoft Windows Serverではサーバーアプリケーションやデータベースなどのファイルを自動的にウイルス検査の対象から除外することが可能です。これにより、手動でウイルス検査の対象から除外する設定をすることなく、サーバーの全体的なパフォーマンスを向上することが可能です。

詳細設定(検出エンジン画面)



サーバーにインストールされている自動除外対象製品を検出し、ウイルス検査の除外対象とするリストに自動的に加えます。



【自動除外対象製品】

- Microsoft Windows Server　・ Microsoft SQL Server ・ Microsoft Exchange Server・ Microsoft SharePoint・ Microsoft ISA Server
- Microsoft Forefront Threat Management Gateway・ Microsoft Internet Information Services・ Microsoft Hyper-V ・IBM Domino・ Kerio Connect
- Kerio Control・ Microsoft Lync / Skype for Business Server・ Microsoft Lync / Skype for Business Serverファイル共有・ファイル共有監視

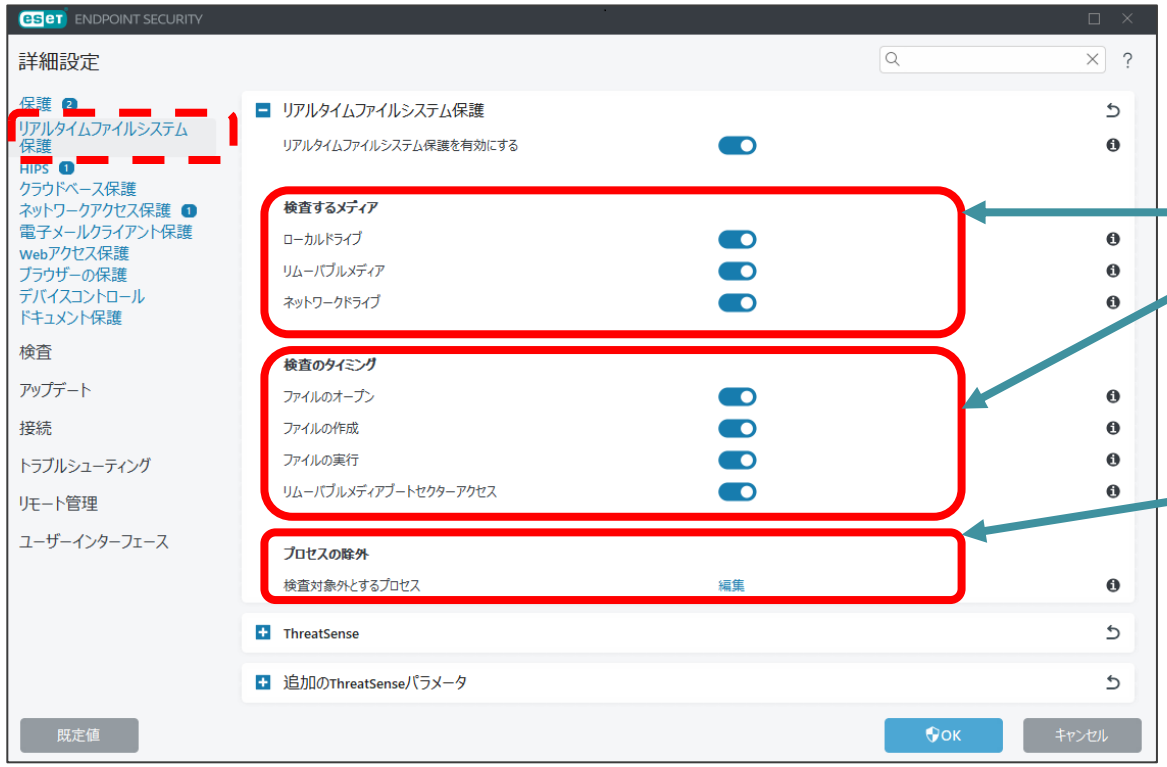
2-2-6. リアルタイムファイルシステム保護

EES
EEA
ESSW

Cybersecurity
Progress. Protected.

リアルタイムファイルシステム保護を使用すると、ファイルを開くときや作成するとき、実行するときに検査を行うことが可能です。リアルタイムファイルシステム保護は、システム起動時に開始され、中断することなく常に端末を保護します。

詳細設定(リアルタイムファイルシステム保護画面)



リアルタイムファイルシステム保護を有効にする
メディアや、検査を行うタイミングを設定できます。

「プロセスの除外」
検査から除外される実行ファイルを指定できます。実行ファイルが除外に追加されるとすぐに、そのプロセスのアクティビティによって監視され、このプロセスで実行されるすべてのファイル処理で検査が実行されません。

2-2-7. UEFIスキャナー

EES
EEA
ESSW

Cybersecurity
Progress. Protected.

UEFIスキャナーは、HIPSの一部であり、コンピューターのUEFIを保護します。UEFIはブートプロセスの最初にメモリに読み込まれるファームウェアです。UEFIスキャナーにより、UEFIに感染しシステムを制御するマルウェアの検出が可能です。

詳細設定(リアルタイムファイルシステム保護画面)

2-2-8. クラウドベース保護

EES
EEA
ESSW

ESET LiveGrid®に参加すると、クラウドシステムにより実行中のプロセスの全世界における使用状況が共有されます。これにより実行中のプロセスのリスクレベルを確認できます。 ESET LiveGrid®に不審なファイルを送付すると、送付されたファイルはESET LiveGrid®により解析されます。これは、新たな脅威からESETユーザーを守ることにつながります。

※本機能のご利用には、ESET LiveGridの有効化とインターネット接続可能な環境での運用が必要です。
※ EES/EEA V12.1よりLiveGridを使用する機能が有効で、LiveGirdが無効となっている場合に右下の警告画面の表示がされるようになりました。

詳細設定(クラウドベース保護画面)

「 ESET LiveGrid®レピュテーションシステムに参加する」
実行中のプロセスの全世界における使用状況を確認するにはチェックを付けてください。 ESET LiveGrid®から受け取ったホワイトリストを使用してスキャンパフォーマンスを改善できます。

「サンプルの送信」
ESET LiveGridに送信するサンプルファイルの種類を設定することが可能です。

詳細設定(警告画面)

※ESET LiveGrid®
ESET LiveGrid®は複数のクラウド技術から構成される高度な早期警告システムです。詳細は下記Webページをご参照ください。
https://help.eset.com/glossary/ja-JP/technology_livegrid.html

2-2-9. マルウェア検査

EES
EEA
ESSW

Cybersecurity
Progress. Protected.

マルウェア検査では、コンピューターの検査の際の詳細設定を行うことが可能です。検査の対象やウイルス発見時の動作、機械学習保護機能を利用した報告・保護レベルも設定できます。また、アイドル状態時の検査についての設定も可能です。

詳細設定(マルウェア検査画面)

「検査中のスタンバイの防止」※V12.1より追加
本設定を有効化すると、スキャン中にOSがスタンバイモードになりません。（ただし、バッテリー電源で動作している場合はスタンバイモードになる場合があります。）

「アイドル状態検査」
コンピューターのアイドル状態(スクリーンセーバーの起動時、コンピューターのロック、ユーザーのログオフ)の間を利用して、コンピューター全体の検査をサイレントに実行する機能です。

「オンデマンド検査の検出対応」
オンデマンド検査時の機械学習保護機能のレベルを設定できます。
※アイドル状態検査、スタートアップ検査、ドキュメント保護では、機械学習保護機能は利用できません。

2-2-10. Hyper-V検査

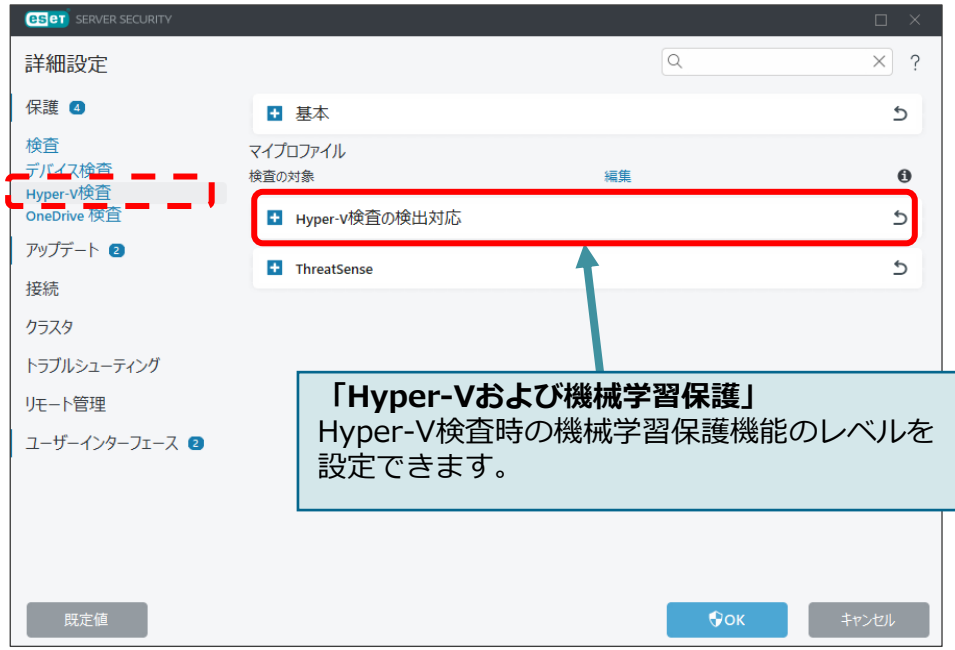
ESSW

Hyper-V検査により、Microsoft Hyper-V Server上の仮想マシンディスクを検査することができます。
ただし、脅威を駆除できるのは仮想マシンが起動していない場合のみです。仮想マシンが起動している場合、仮想マシンのスナップショットが作成され、作成されたスナップショットに対し読み取り専用モードで検査が実行されるため駆除は行われません。

ユーザーインターフェース(検査)

「Hyper-V検査」
Hyper-Vがインストールされている場合のみ表示されます。

詳細設定(Hyper-V検査画面)



「Hyper-Vおよび機械学習保護」
Hyper-V検査時の機械学習保護機能のレベルを設定できます。

2-2-11. OneDrive検査

ESSW

OneDrive検査により、Microsoft OneDrive for Businessクラウドストレージに保存されているファイルやフォルダーを検査することが可能です。なお、本機能を使用する場合は、Microsoft OneDrive/Office365管理者アカウントの資格情報を登録する必要があります。

詳細設定(OneDrive検査画面)

ユーザーインターフェース(OneDrive検査の設定画面)

2-2-12. HIPS

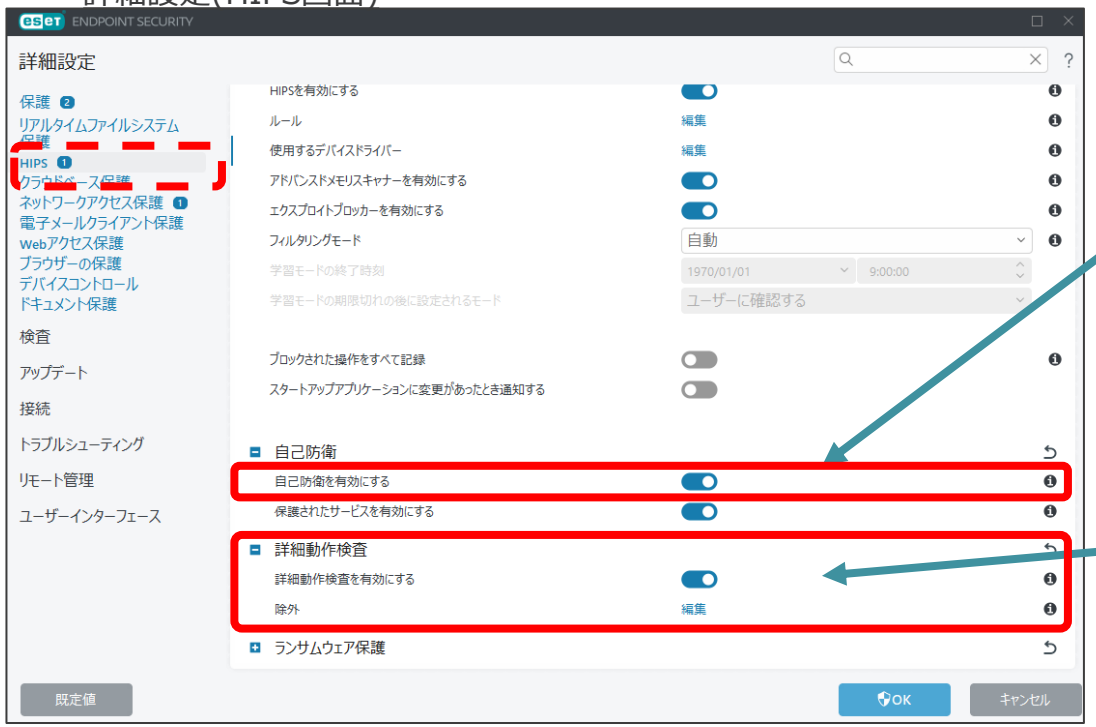
EES
EEA
ESSW

Cybersecurity
Progress. Protected.

HIPS(Host-based Intrusion Prevention System)によりコンピューターのセキュリティに悪影響を与えようとする望ましくない活動およびマルウェアからシステムが保護されます。HIPSは、高度な動作分析とネットワークフィルタリングの検出機能を連携して、実行中のプロセス、ファイル、およびレジストリキーを監視します。

※HIPS設定の変更は、経験豊富なユーザーだけが行ってください。HIPSの設定が正しくないと、システムが不安定になる可能性があります。

詳細設定(HIPS画面)



「自己防衛を有効にする」
自己防衛は悪意のあるソフトウェアによって、重要なシステムおよびESETのプロセス、レジストリキー、およびファイルを改ざんから防止し、スパイウェア対策の保護機能が破損されたり、無効化されたりしないようにしています。

「詳細動作検査」
端末で実行中のすべてのプログラムの動作を分析し、プロセスの動作に悪意があるかどうかを検査します。
検査から除外するプロセスを設定することも可能です。
※ESET Server Security for Microsoft Windows Serverにはこちらの項目はありません。

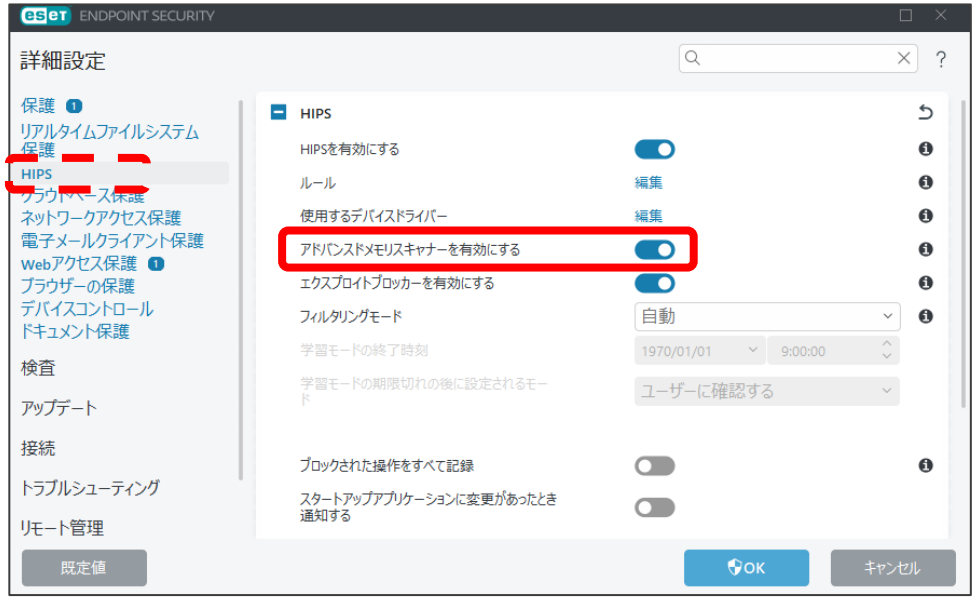
2-2-13. アドバンスドメモリスキャナー

EES
EEA
ESSW

Cybersecurity
Progress. Protected.

実行中のメモリの詳細な検査を実施し、難読化や巧妙な手法で偽装されたウイルスの検出が可能です。これにより、シグネチャ検査やヒューリスティック検査でも検出が難しい難読化・暗号化されたウイルスについても検出します。

詳細設定(HIPS画面)



※ヒューリスティック
ウイルス検出の手法の一種で、プログラムの挙動を分析して悪意あるプログラムかを判定する技術を意味します。詳細はサイバーセキュリティ情報局、キーワード辞典をご参照ください。
https://eset-info.canon-its.jp/malware_info/term/detail/00092.html

また、下記Webページもご参照ください。
https://canon.jp/business/solution/it-sec/lineup/eset/feature/antivirus

2-2-14. エクスプロイトブロッカー

EES
EEA
ESSW

Cybersecurity
Progress. Protected.

ブラウザー、メールソフトウェア、PDFリーダー、JAVAなどのアプリケーションの脆弱性を悪用するウイルスから
コンピューターを保護することが可能です。疑わしい振る舞いを検出したら、直ちに動作をブロックします。これにより
脆弱性を悪用して個人情報やFTPアカウントなどを盗もうとするウイルスを検知することが可能です。
※本機能のご利用には、ESET LiveGridの有効化とインターネット接続可能な環境での運用が必要です。

詳細設定(HIPS画面)

※エクスプロイト
ソフトウェアの脆弱性を暴く行為、またはそのための検証コードを意味します。詳細はサイバーセキュリティ情報局、キーワード辞典をご参照ください。
https://eset-info.canon-its.jp/malware_info/term/detail/00048.html

※脆弱性(バルナラビリティ)
コンピューター関連のプログラムに潜む欠点や盲点、弱点のことで、「セキュリティ・ホール」とも呼ばれます。詳細はサイバーセキュリティ情報局、キーワード辞典をご参照ください。
https://eset-info.canon-its.jp/malware_info/term/detail/00068.html

2-2-15. ランサムウェア保護

EES
EEA
ESSW

Cybersecurity
Progress. Protected.

ランサムウェア保護は、データを修正しようとするアプリケーションとプロセスの動作を監視します。 悪意のあるアプリケーションの動作が発見された場合や、ESET LiveGridからの情報によって不審なアプリケーションであると示された場合、そのアプリケーションを、自動的にブロックすることなどが可能です。

※この機能を利用するためには、ESET LiveGridを有効にする必要があります。
※ランサムウェア保護機能を利用するには、インターネット接続環境での運用が必要です。

詳細設定(HIPS画面)

※ランサムウェア
ファイルを暗号化するなどの障害を意図的に発生させ、その解決のための身代金を要求するマルウェアのことです。詳細はサイバーセキュリティ情報局、キーワード辞典をご参照ください。
https://eset-info.canon-its.jp/malware_info/term/detail/00104.html

2-2-16. ランサムウェア修復

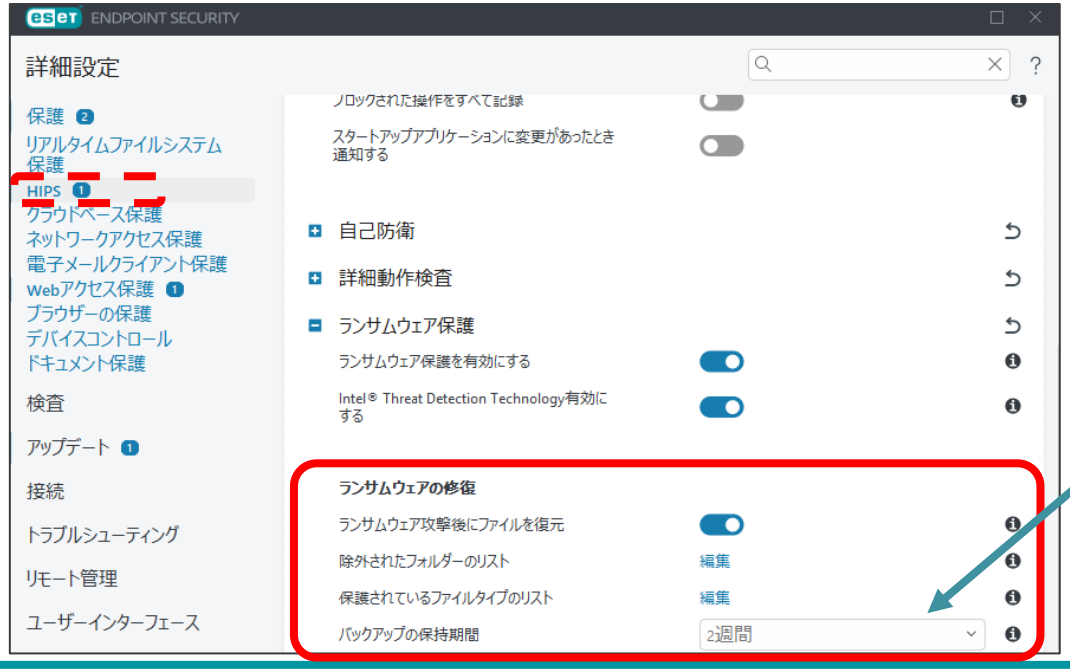
EES
EEA

Cybersecurity
Progress. Protected.

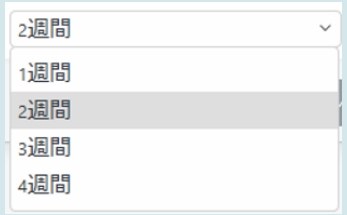
ランサムウェア修復は、実行ファイルに変更を加えた場合など、不審なプロセスを検知した際にファイルをバックアップし、ランサムウェア攻撃後にファイルを復元することが可能です。

※本機能は、ESET PROTECT Advanced、Complete、Elite、MDRのいずれかのライセンスをご利用、かつセキュリティ管理ツールでの管理（ESET Management エージェント V12.0以降の利用）が必要です。また、対応OSはWindows クライアントのみです。(2026年4月現在)
※本機能のご利用には、ESET LiveGridの有効化とインターネット接続可能な環境での運用が必要です。

詳細設定(HIPS画面)



「バックアップの保持期間」
ランサムウェアでないと判断しても設定した期間内であれば保持が可能



※最長4週間

※バックアップ対象拡張子は規定では以下の通りです。
“aif”,“cda”,“mid”,“midi”,“mp3”,“ogg”,“wav”,“wma”,“wpl”,“7z”,“arj”,“deb”,“pkg”,“rar”,“tar”,“gz” ,“z”,“zip”,“csv”,“dat”,“db”,“dbf”,“mdb”,“sav”,“sql”,“tar”,“xml”,“bat”,“bin”,“py”,“wsf”,“com”,“ jar”,“bat”,“cgi”,“pl”,“ai”,“bmp”,“gif”,“ico”,“jpeg”,"jpg","png","ps","psd","svg","tif","tiff","asp","aspx","css","htm","html","js","jsp","php","ppt","pps","odp","key","pptx","c","class","cpp","cs","h","java","sh","swift","vb","ods","xlr","xls","xlsx","3g2","3gp","avi","flv", "h264", "m4v","mkv","mov","mp4","mpg","mpeg","rm","swf" ,"vob","wmv","doc","docx","odt","pdf","rtf","tex","txt","wks","wps","wpd"

2-2-17. アップデート（1）

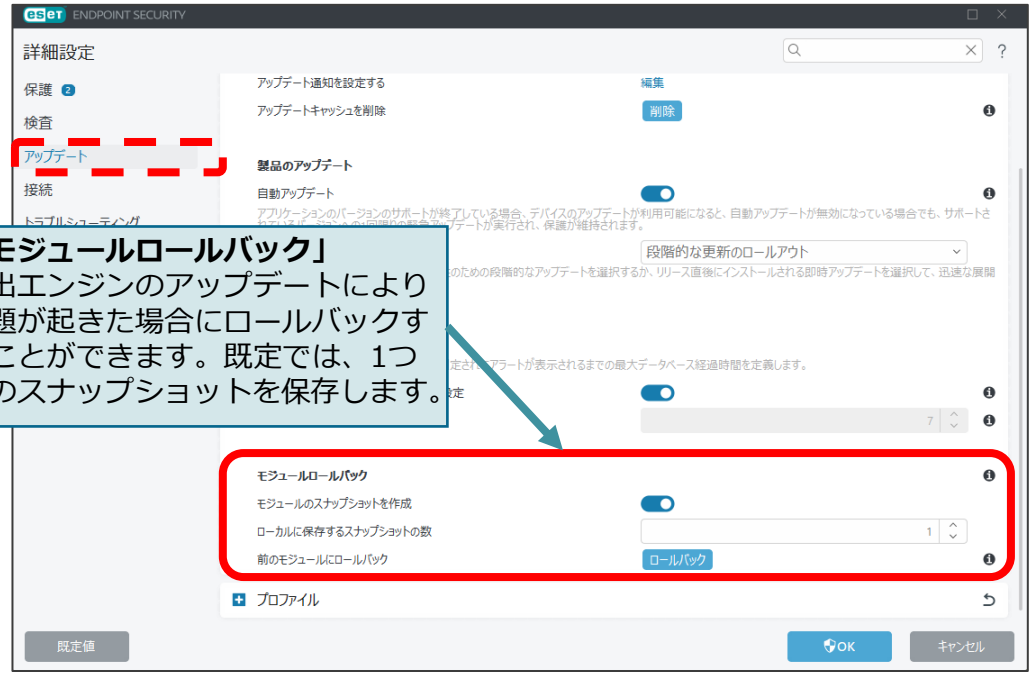
EES
EEA
ESSW

Cybersecurity
Progress. Protected.

アップデートの項目では、検出エンジンの取得先を変更することなどが可能です。ミラーサーバーより検出エンジンの取得をする場合は、本項目より設定してください。また、アップデートサーバーは通常のアップデートサーバーのほか、通常の検出エンジンの配信より少し早く配信されるテストモードや、逆に通常配信後12時間経過してから配布される遅延アップデートを選ぶことが可能です。

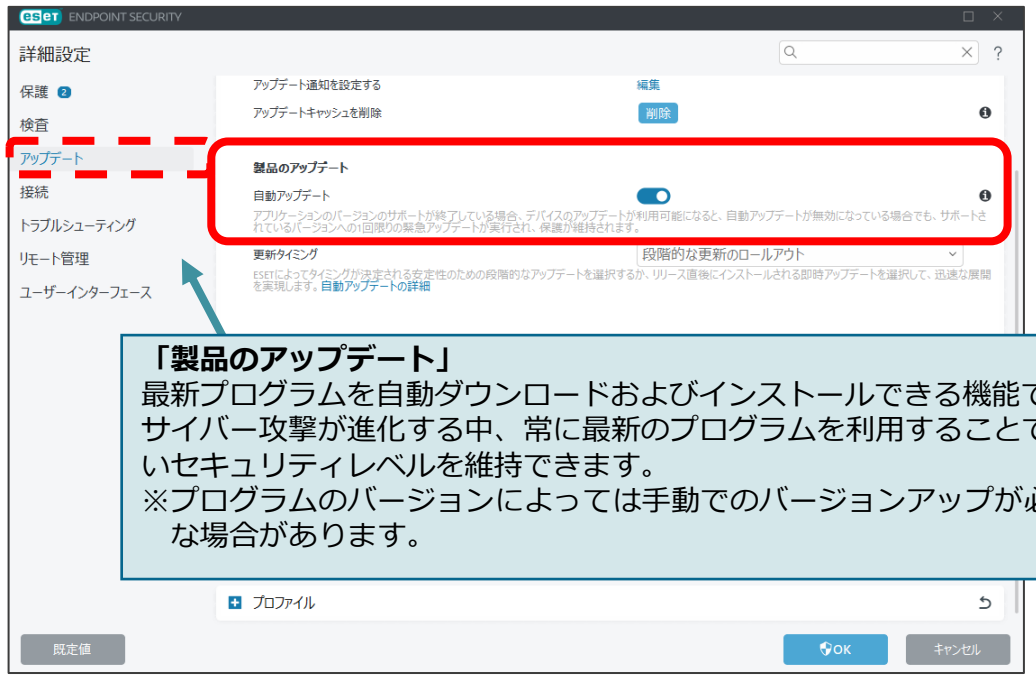
※テストモードはESET社内部テストを経てリリースされますが、常に安定しているわけではありません。
　高い可用性や安定性が必要な実働サーバーやワークステーションでは決して使用しないでください。

詳細設定(アップデート画面)



「モジュールロールバック」
検出エンジンのアップデートにより問題が起きた場合にロールバックすることができます。既定では、1つ分のスナップショットを保存します。

詳細設定(プログラムコンポーネントのアップデート画面)



「製品のアップデート」
最新プログラムを自動ダウンロードおよびインストールできる機能です。サイバー攻撃が進化する中、常に最新のプログラムを利用することで高いセキュリティレベルを維持できます。
※プログラムのバージョンによっては手動でのバージョンアップが必要な場合があります。

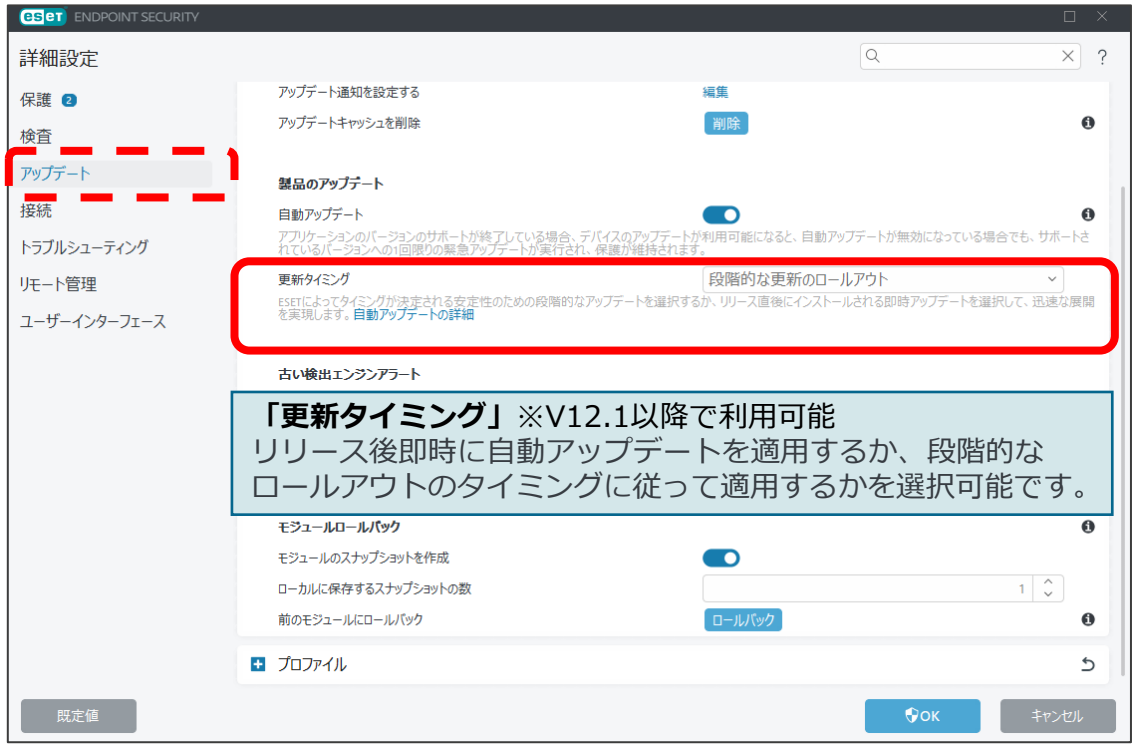
2-2-17. アップデート（2）

EES
EEA
ESSW

eset Cybersecurity Progress. Protected.

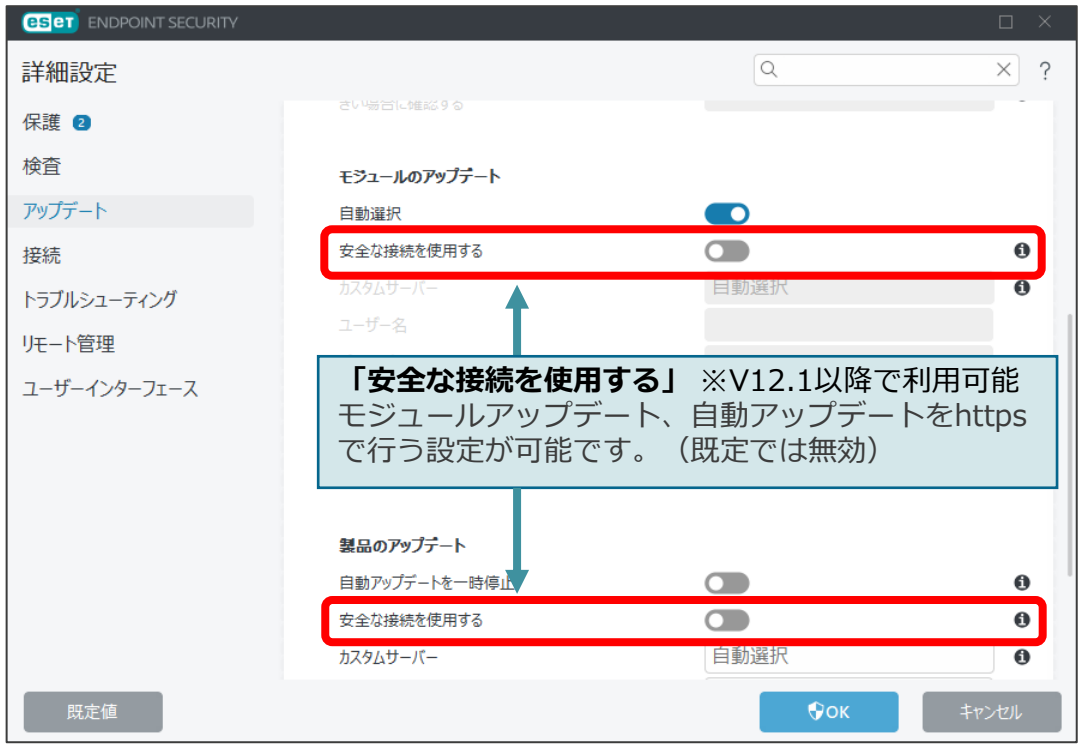
EES/EEA/ESSW V12.1より、「更新タイミング」の項目にてリリース後、即時に自動アップデートを適用するか、ESETが決定する段階的なロールアウトのタイミングに従って適用するかを選択できるようになりました。
なお、既定では「段階的なロールアウト」に設定されています。
また、モジュールアップデートや自動アップデートをhttpsで行う設定が追加されました。※既定では無効です

詳細設定(プログラムコンポーネントのアップデート画面)



「更新タイミング」※V12.1以降で利用可能
リリース後即時に自動アップデートを適用するか、段階的なロールアウトのタイミングに従って適用するかを選択可能です。

詳細設定(プロファイルの画面)



「安全な接続を使用する」※V12.1以降で利用可能
モジュールアップデート、自動アップデートをhttpsで行う設定が可能です。（既定では無効）

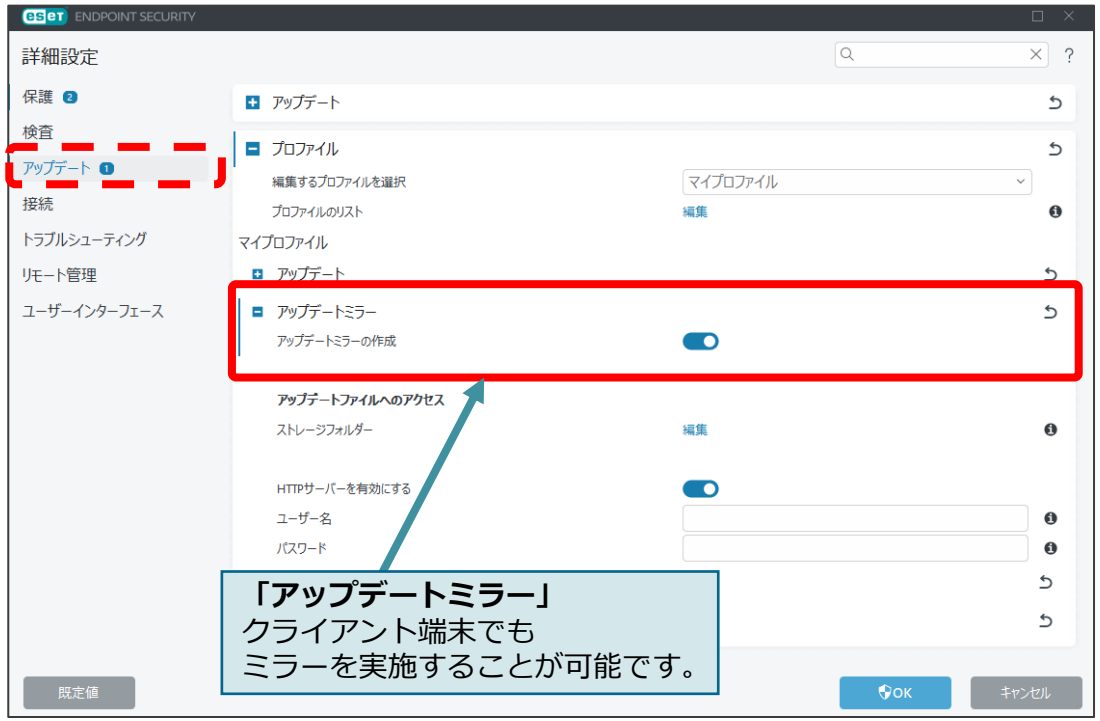
2-2-18. ミラー機能

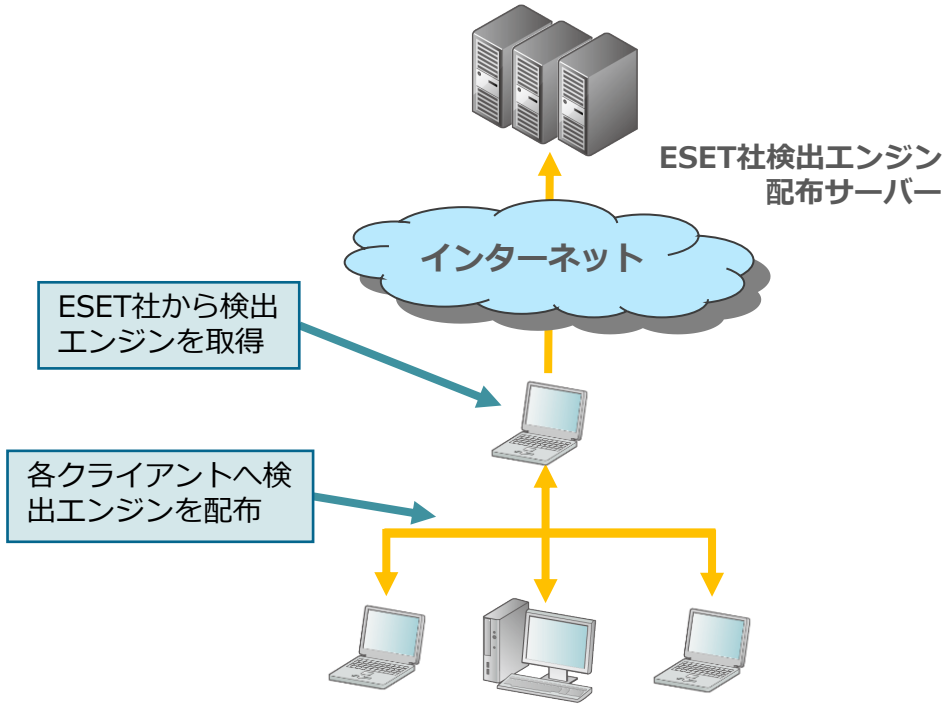
EES
EEA
ESSW

ESET Cybersecurity Progress. Protected.

ミラー機能とは、ESET社から配布される検出エンジンなどのアップデートファイルをミラーリングし、クライアントに配布する機能です。これにより、検出エンジンのアップデートに伴うインターネット負荷が軽減されます。また、ESET Endpoint Security / ESET Endpoint アンチウイルスにもミラー機能が搭載されているため、サーバーをご用意いただかなくても、ミラー環境を構築することが可能です。

詳細設定(アップデート画面)





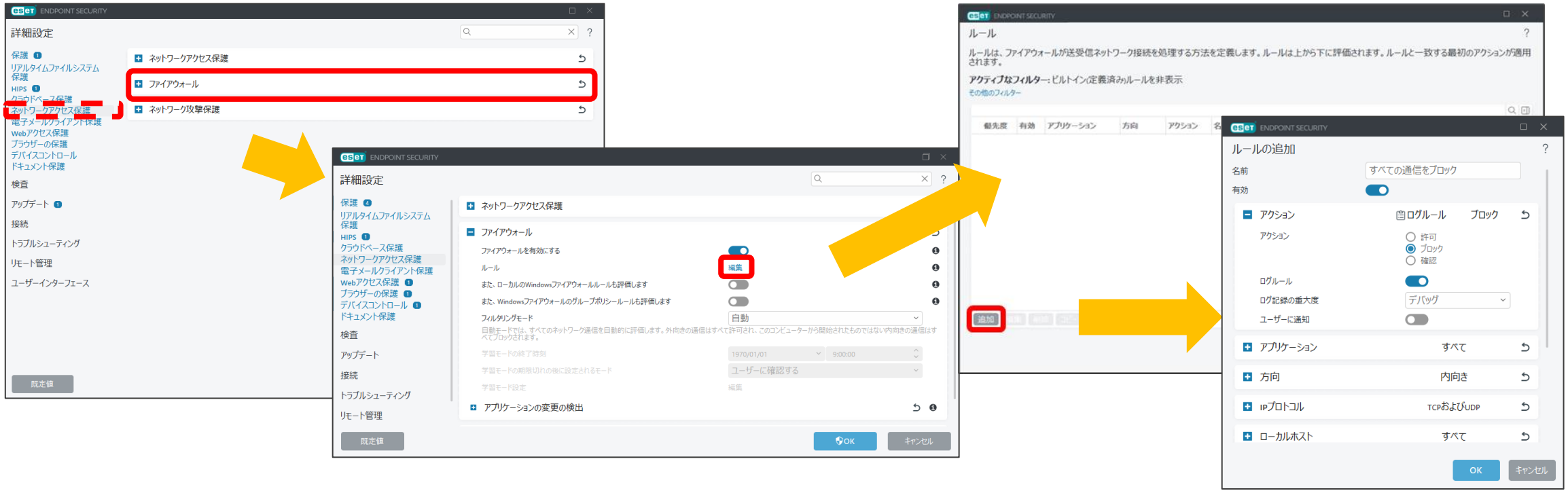
2-2-19. ファイアウォール

EES
ESSW

Cybersecurity
Progress. Protected.

不正侵入対策(パーソナルファイアウォール)によって、ネットワークトラフィックを確認しルールに基づいた接続の許可や拒否の設定を行うことが可能です。
プロトコル、ポート、アプリケーションなどの指定によるルール作成が可能です。

詳細設定(ネットワークアクセス保護画面)



2-2-20. ネットワーク攻撃保護

EES
EEA
ESSW

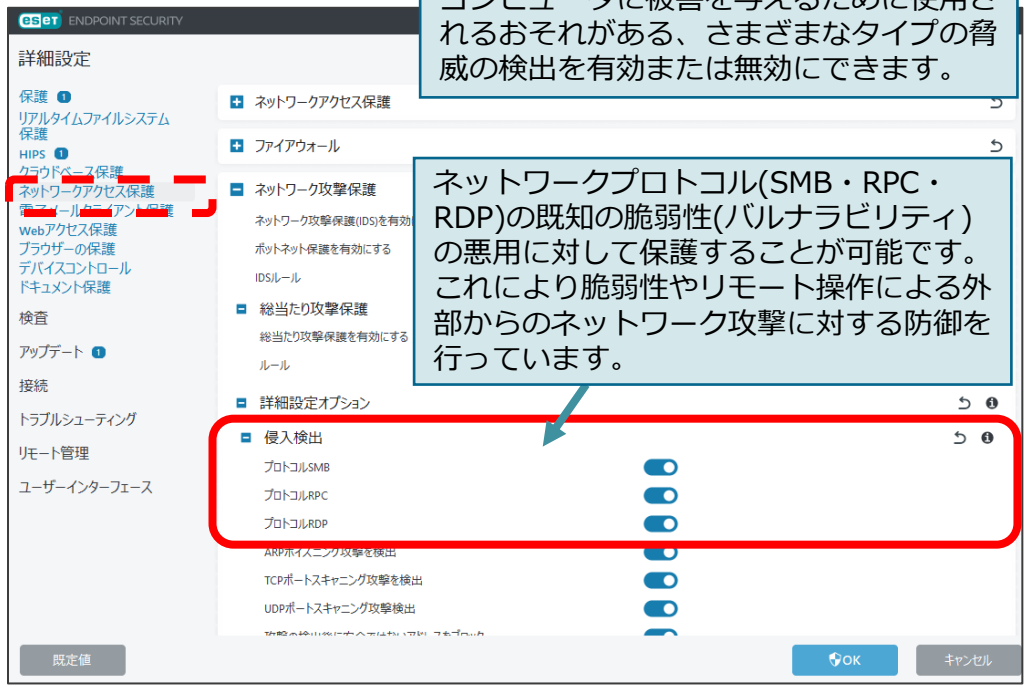
ネットワークトラフィックの内容を分析し、ネットワーク攻撃から保護します。
有害だと見なされるすべてのトラフィックがブロックされます。これによりワーム攻撃、DoS攻撃、ポートスキャン攻撃、ブルートフォース攻撃などを検出することが可能です。

詳細設定(ネットワークアクセス保護画面)

「総当たり攻撃保護」
SMB・RDPに対する総当たり攻撃から端末を保護します。事前に定義した認証の最大試行回数を超えた場合、一定期間接続をブロックします。

「侵入検出」
コンピュータに被害を与えるために使用されるおそれがある、さまざまなタイプの脅威の検出を有効または無効にできます。

ネットワークプロトコル(SMB・RPC・RDP)の既知の脆弱性(バルナラビリティ)の悪用に対して保護することが可能です。これにより脆弱性やリモート操作による外部からのネットワーク攻撃に対する防御を行っています。



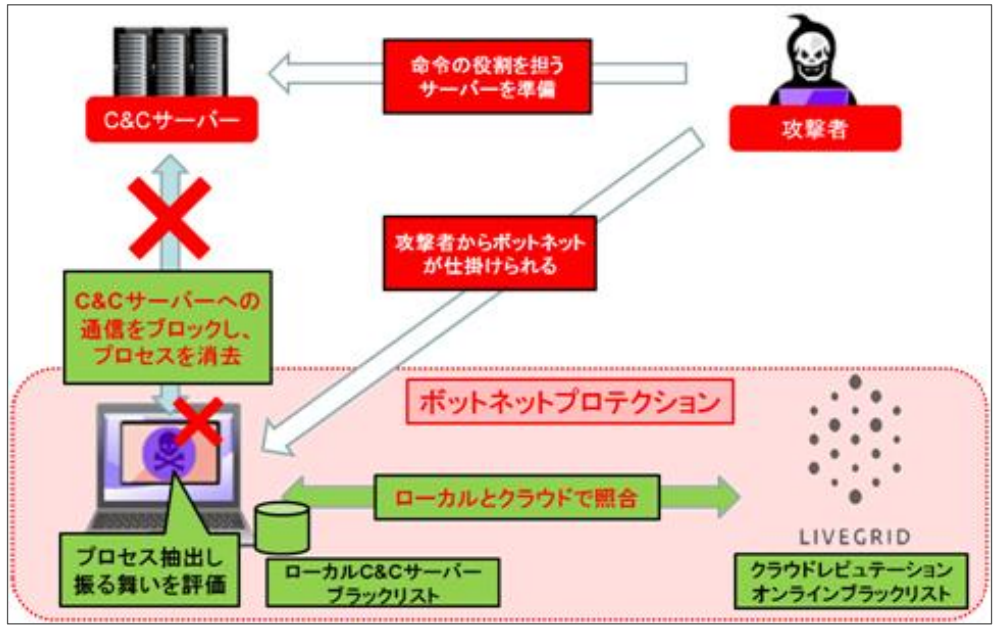
2-2-21. ボットネット保護

EES
EEA
ESSW

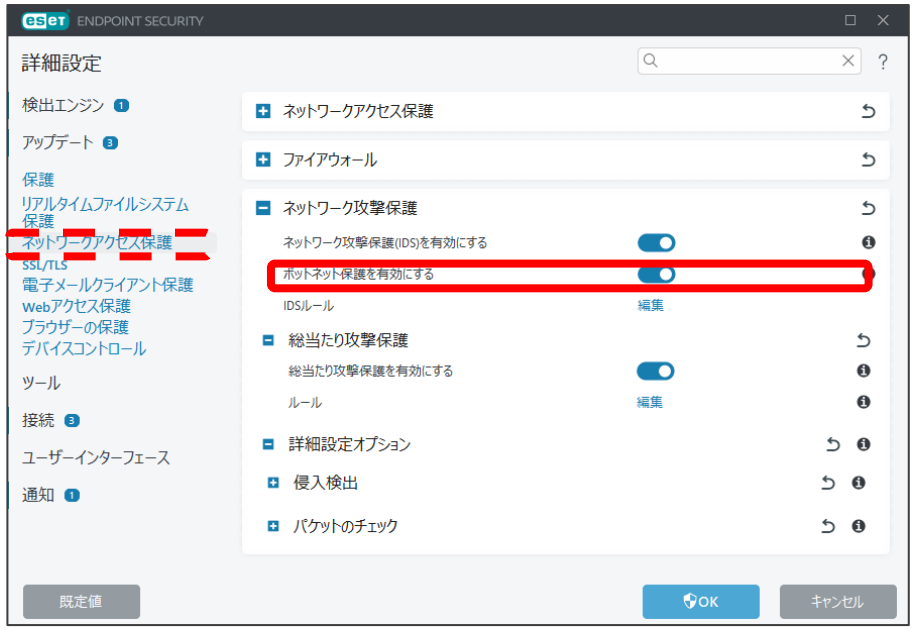
Cybersecurity
Progress. Protected.

通信を解析し、リモートからのアクセスを検知して、迅速にボットを検出します。多層防御における防御層のひとつとして、不正サーバーへの送信となる不審な通信やアドレスを検知して遮断することで、標的型攻撃を防ぎます。

ボットネット攻撃例



詳細検査(ネットワークアクセス保護画面)



※ボットネット
第三者の指示通りに動く操り人形(ロボット)」にしてしまう悪意のあるプログラムが「ボット」、ボットをいくつも集めてネットワーク化したものがボットネットと呼ばれます。

※下記サイバーセキュリティ情報局のWebページ『ボットネットとは何か？　どうやって防ぐのか？』もご参照ください。
https://eset-info.canon-its.jp/malware_info/trend/detail/150120_3.html

2-2-22. WEBとメール

EES
EEA
ESSW

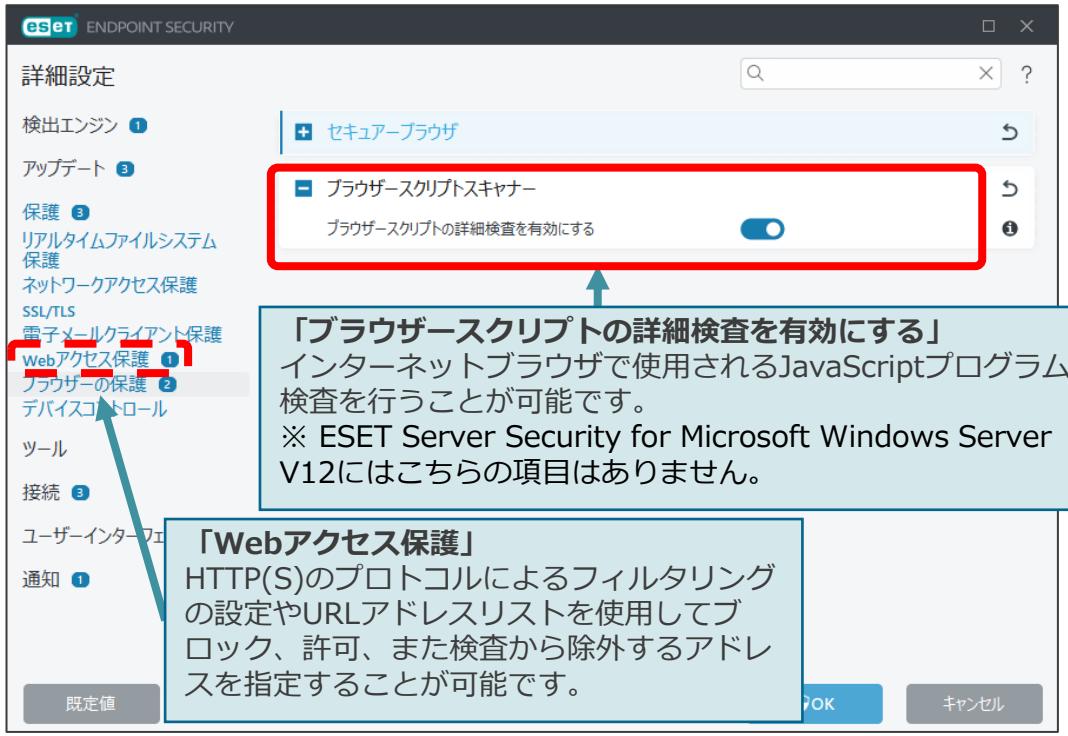
Cybersecurity
Progress. Protected.

プロトコルフィルタリングの機能により、使用しているインターネットブラウザやメールクライアントに関係なく、HTTP(S)、POP3(S)、IMAP(S)トラフィックの検査を行い、ウイルスを検出することが可能です。これによりWebブラウザやメールの添付ファイルに潜むウイルスを検知することが可能です。

詳細設定(電子メールクライアント保護画面)

「電子メールクライアント保護」
POP3(S)とIMAP(S)のプロトコルによるフィルタリングの設定や迷惑メール対策の設定を行うことが可能です。

詳細設定(Webアクセス保護画面)



「ブラウザースクリプトの詳細検査を有効にする」
インターネットブラウザで使用されるJavaScriptプログラムの検査を行うことが可能です。
※ ESET Server Security for Microsoft Windows Server V12にはこちらの項目はありません。

「Webアクセス保護」
HTTP(S)のプロトコルによるフィルタリングの設定やURLアドレスリストを使用してブロック、許可、また検査から除外するアドレスを指定することが可能です。

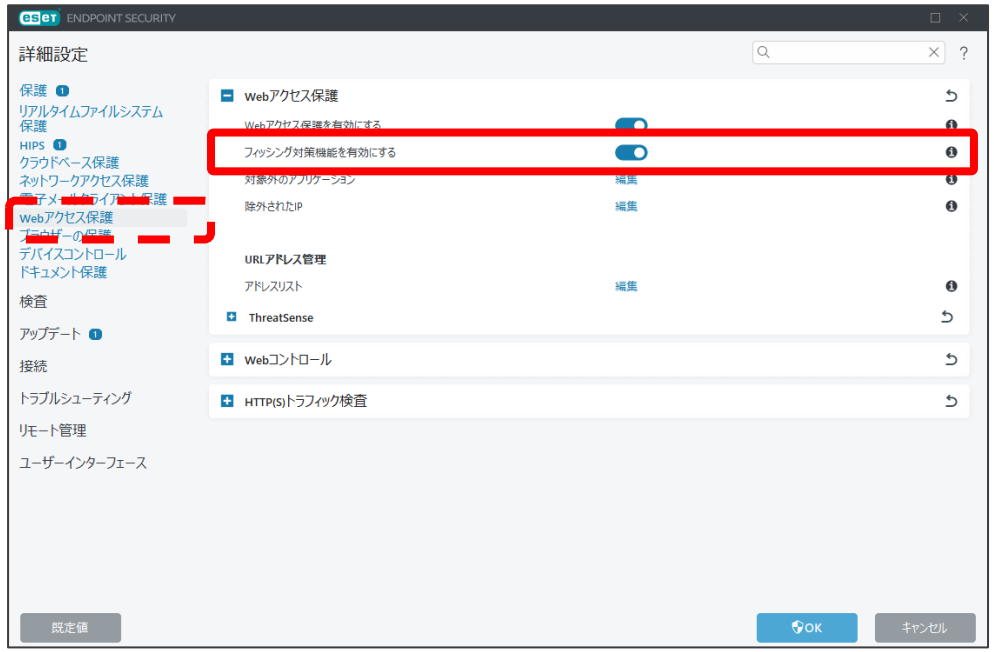
2-2-23. フィッシング対策

EES
EEA
ESSW

Cybersecurity
Progress. Protected.

フィッシングサイトのリスト、シグネチャと照合・検査を行います。フィッシングページへアクセスするとアクセスを抑止するダイアログが表示されます。また、フィッシングページと思われるURLをユーザーが開発元のESET社へ報告することも可能です。

詳細設定(Webアクセス保護画面)



潜在的なフィッシングの脅威検出画面

警告画面が表示され、サイトに進むかを選択することが可能です。

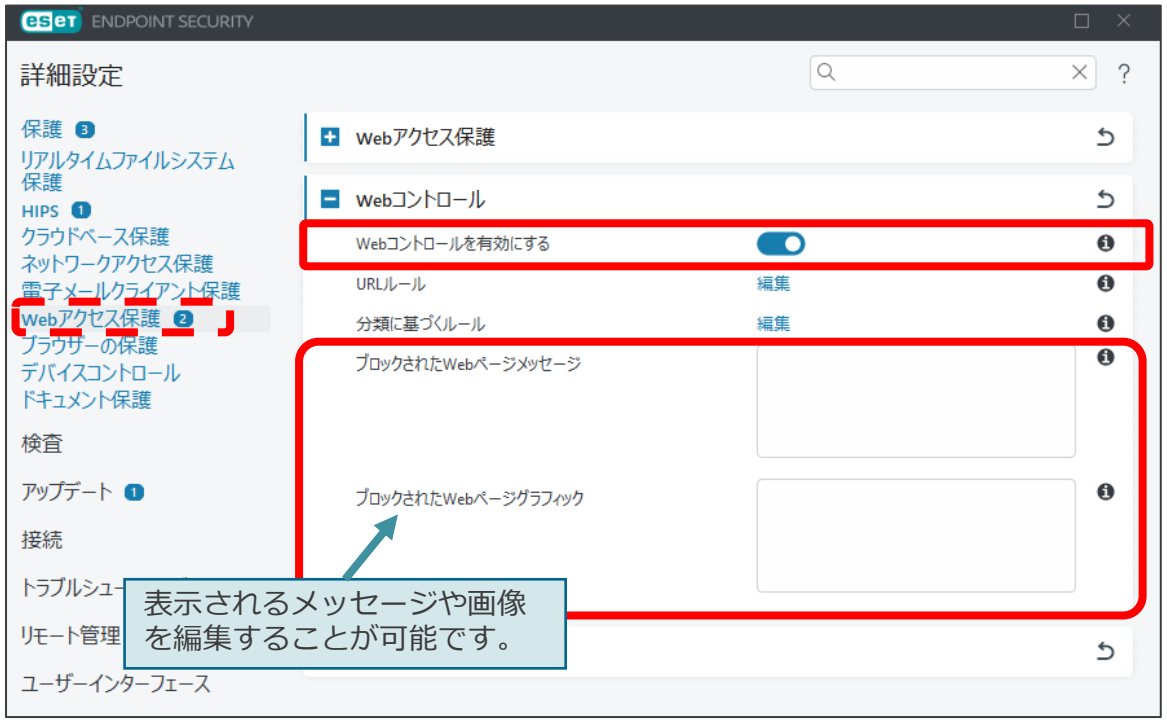
※フィッシング詐欺
実在する会員制のインターネットサービスなどを装い、利用者からIDやパスワード、クレジットカード情報、暗証番号などの個人情報を窃取する不正行為を意味します。
詳細はサイバーセキュリティ情報局、キーワード辞典をご参照ください。
https://eset-info.canon-its.jp/malware_info/term/detail/00128.html

2-2-24. Webコントロール

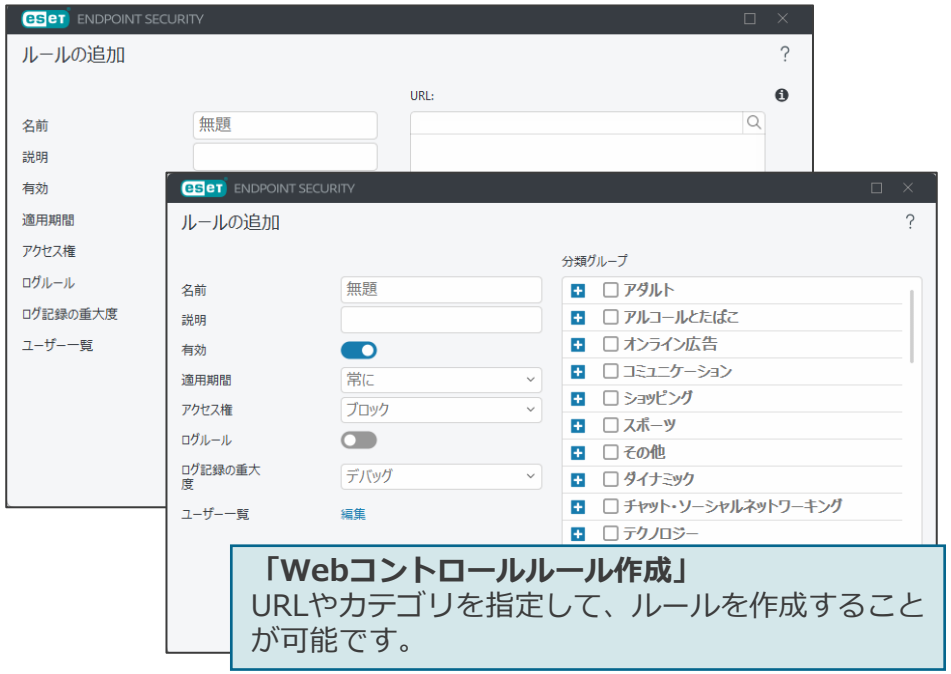
EES
ESSW

Webコントロール機能によって、WebサイトをURLやカテゴリごとに接続の許可や拒否の設定を行うことが可能です。
これにより、ユーザーの生産性を低下させたり、悪影響を与えたりする可能性のある不適切または有害なコンテンツやページへアクセスすることを防ぐことが可能です。

詳細設定(Webアクセス保護画面)



Webコントロールルール作成画面



2-2-25. セキュアブラウザー

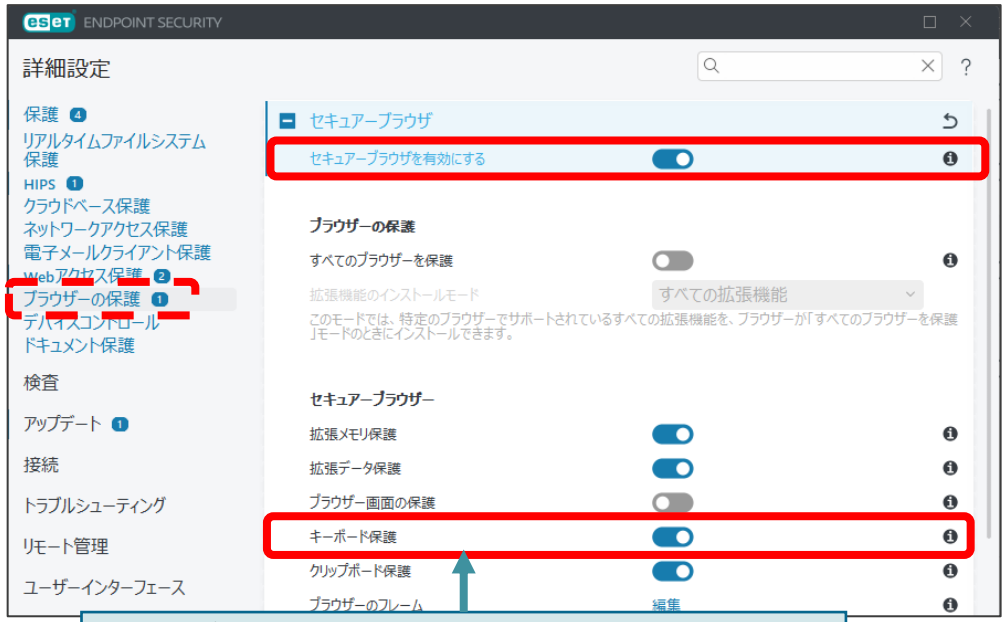
EES

Cybersecurity
Progress. Protected.

コンピューターで実行中の他のプロセスからWebブラウザーを保護します。ブラウザーのメモリ空間やブラウザーウィンドウの内容が改ざんされることを防止します。また、すべてのWebサイトをセキュアブラウザーで保護します。

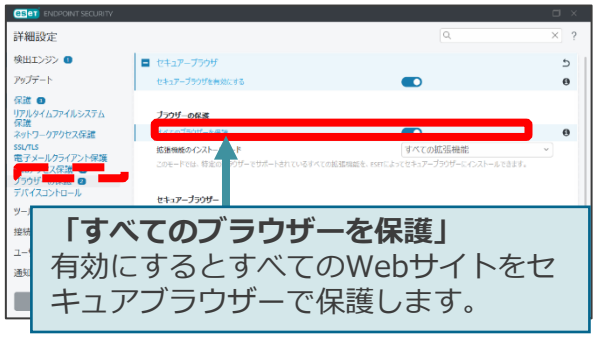
※セキュアブラウザーはESET Endpoint Security でのみご使用いただけます。

詳細設定(セキュアブラウザー画面)



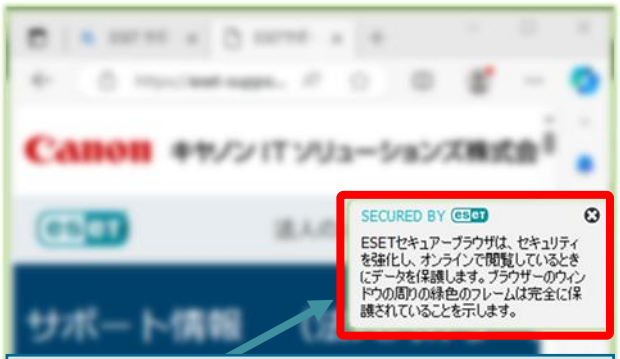
「キーボード保護」
セキュアブラウザーにキーボードから入力した情報は他のアプリケーションから隠すことができます。これにより、キーロガーに対する保護が強化されます。

詳細設定(セキュアブラウザー画面)



「すべてのブラウザーを保護」
有効にするとすべてのWebサイトをセキュアブラウザーで保護します。

セキュアブラウザー(例)



セキュアブラウザ利用中は緑色のフレームで囲まれます。セキュアブラウザの説明ポップアップが表示されます。
※EES V9.1以降、緑色のフレームを消すことも可能です。

ブラウザー画面の保護(例)

「ブラウザー画面の保護」
有効にすると、ブラウザー画面のスクリーンショットや動画の録画をブロックします。

2-2-26. デバイスコントロール

EES
EEA
ESSW

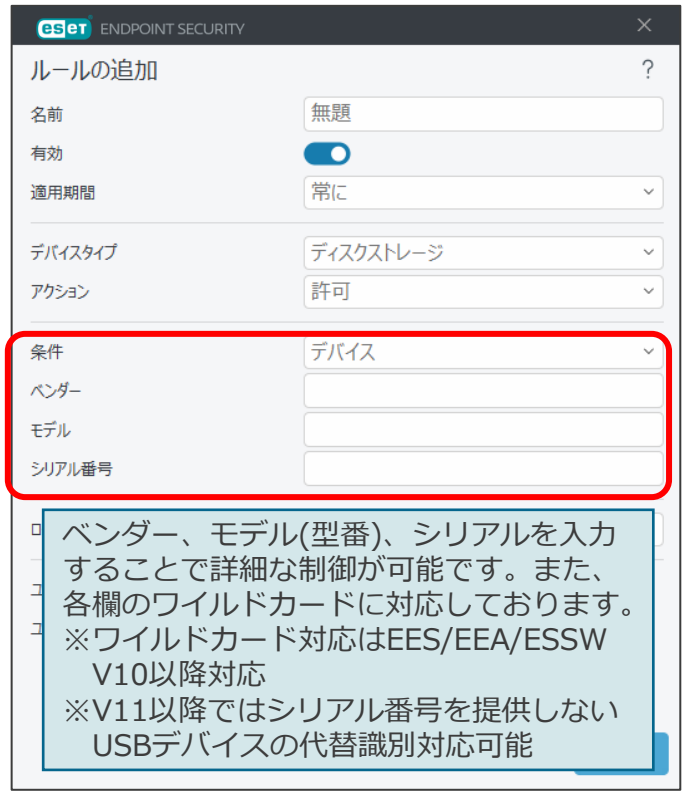
Cybersecurity
Progress. Protected.

デバイスコントロール機能を使用することで、CD/DVDやUSB接続のストレージデバイスなどの利用を制御することが可能です。これにより、各端末上で利用できるデバイスを制限し、USBメモリやスマートフォンなどで機密情報を含むファイルなどを持ち出されることを防ぐことが可能です。

設定可能なデバイスのタイプとアクション

デバイスタイプ	アクション			
	許可 (読み込み/ 書き込み)	ブロック	書き込み ブロック (読み取り 専用)	警告
ディスクストレージ	○	○	○	○
CD/DVD	○	○	○	○
USBプリンタ	○	○	ー	○
FireWire	○	○	○	○
Bluetoothデバイス	○	○	ー	○
スマートカードリーダー	○	○	ー	○
イメージングデバイス	○	○	ー	○
モデム	○	○	ー	○
LPT/COMポート	○	○	ー	○
ポータブルデバイス	○	○	ー	○
すべてのデバイスタイプ	○	○	○	○

デバイスコントロール設定



ベンダー、モデル(型番)、シリアルを入力することで詳細な制御が可能です。また、各欄のワイルドカードに対応しております。
※ワイルドカード対応はEES/EEA/ESSW V10以降対応
※V11以降ではシリアル番号を提供しないUSBデバイスの代替識別対応可能

デバイスコントロール警告メッセージ画面

デバイスコントロールブロックメッセージ画面

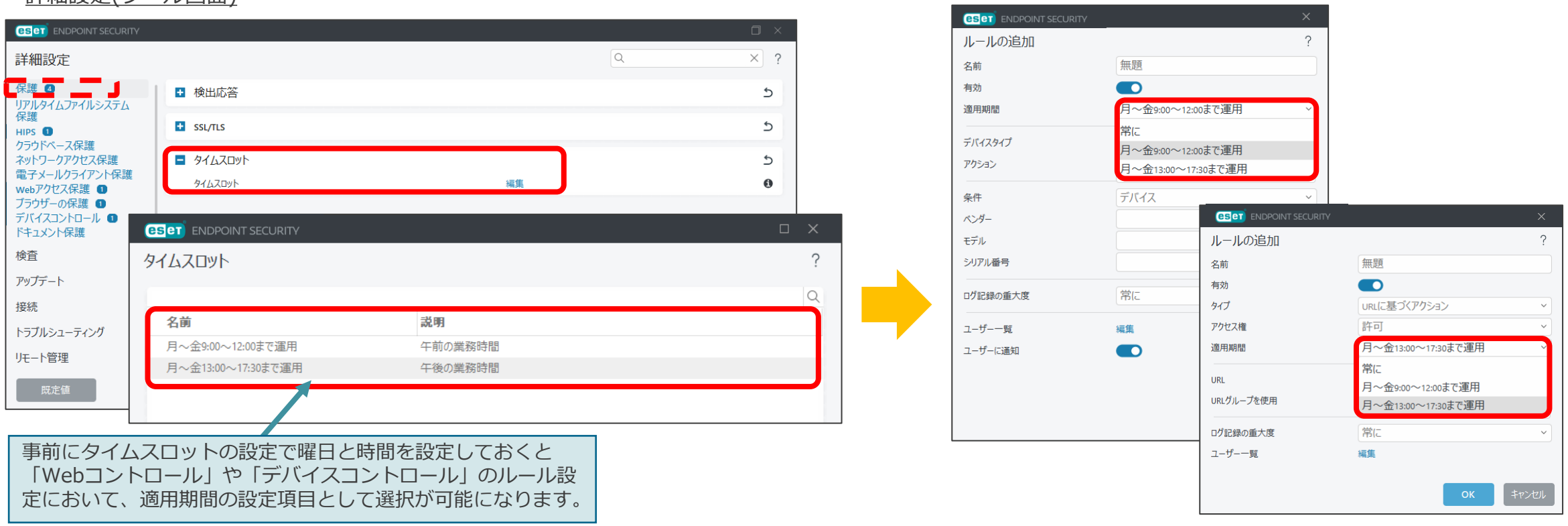
2-2-27. タイムスロット

EES
EEA
ESSW

Cybersecurity
Progress. Protected.

事前に「タイムスロット」の設定にて期間を作成しておくことで、Webコントロールルールとデバイスコントロールルールを作成する際に、ルールを適用する時間帯や曜日を指定することが可能です。これにより、業務時間中のみ特定のWebサイトへのアクセスを制限するなどお客様の運用に合わせて柔軟な運用が可能です。

詳細設定(ツール画面)



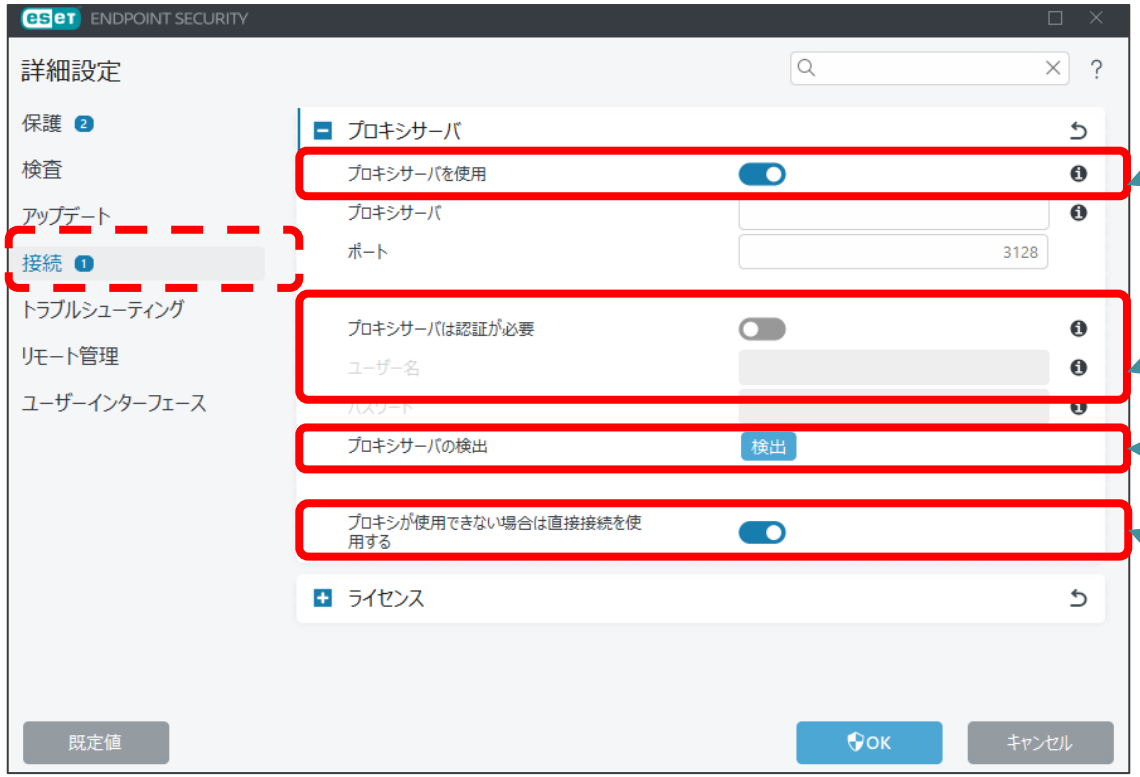
事前にタイムスロットの設定で曜日と時間を設定しておくと「Webコントロール」や「デバイスコントロール」のルール設定において、適用期間の設定項目として選択が可能になります。

2-2-28. プロキシサーバ

EES
EEA
ESSW

検出エンジンのアップデートやESETのウイルス・スパイウェア対策プログラムのアクティベーション(認証)を、インターネット経由で行う場合、インターネットに接続する際にプロキシサーバを経由するでは、ESETのウイルス・スパイウェア対策プログラムにプロキシサーバの設定を行う必要があります。

詳細設定(接続画面)



プロキシサーバを設定する際はチェックを付けてください。

プロキシサーバで認証が必要な場合は、チェックを付け有効なユーザー名とパスワードを入力してください。

「検出」をクリックすると、自動的にInternet ExplorerまたはGoogle Chromeのインターネットオプションで指定したパラメーターがコピーされます。

「プロキシが使用できない場合は直接接続を使用する」
「プロキシサーバを使用する」設定をしている際に、プロキシに接続できない場合は、プロキシをバイパスして通信を行います。

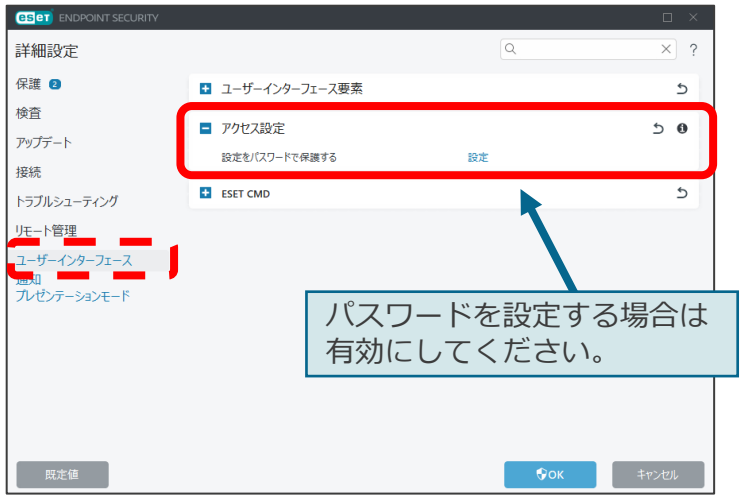
2-2-29. パスワード保護

EES
EEA
ESSW

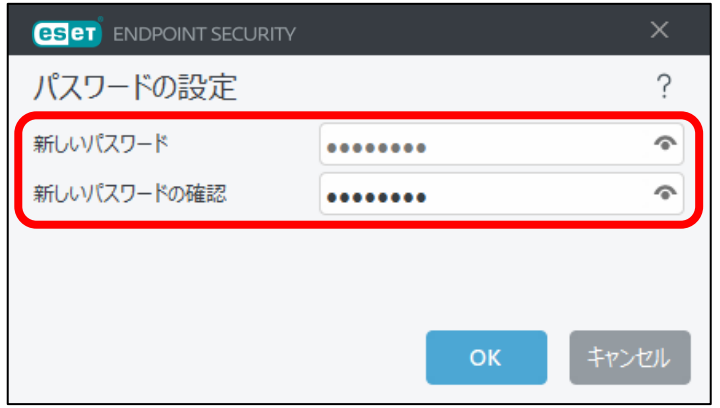
Cybersecurity
Progress. Protected.

設定をパスワードで保護することにより、ユーザーに設定を変更されたり、ESETのウイルス・スパイウェア対策プログラムをアンインストールされることを防止することが可能です。

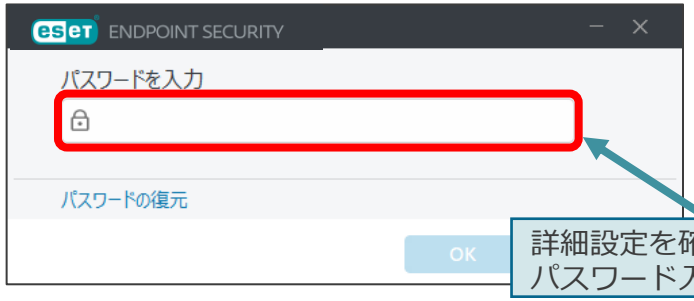
詳細設定(ユーザーインターフェース画面)



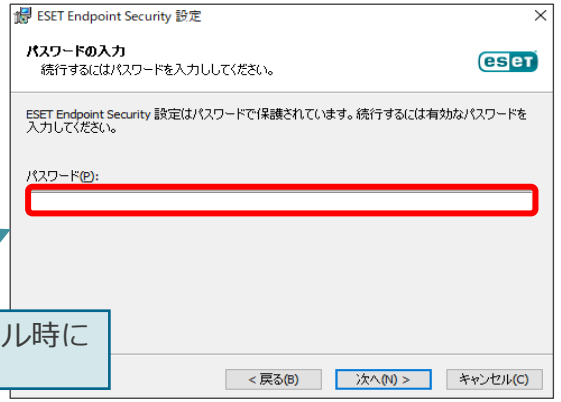
パスワードを設定する場合は
有効にしてください。



パスワード入力画面(詳細設定を確認する場合)



パスワード入力画面(アンインストールする場合)



詳細設定を確認する際やアンインストール時に
パスワード入力を求められます。

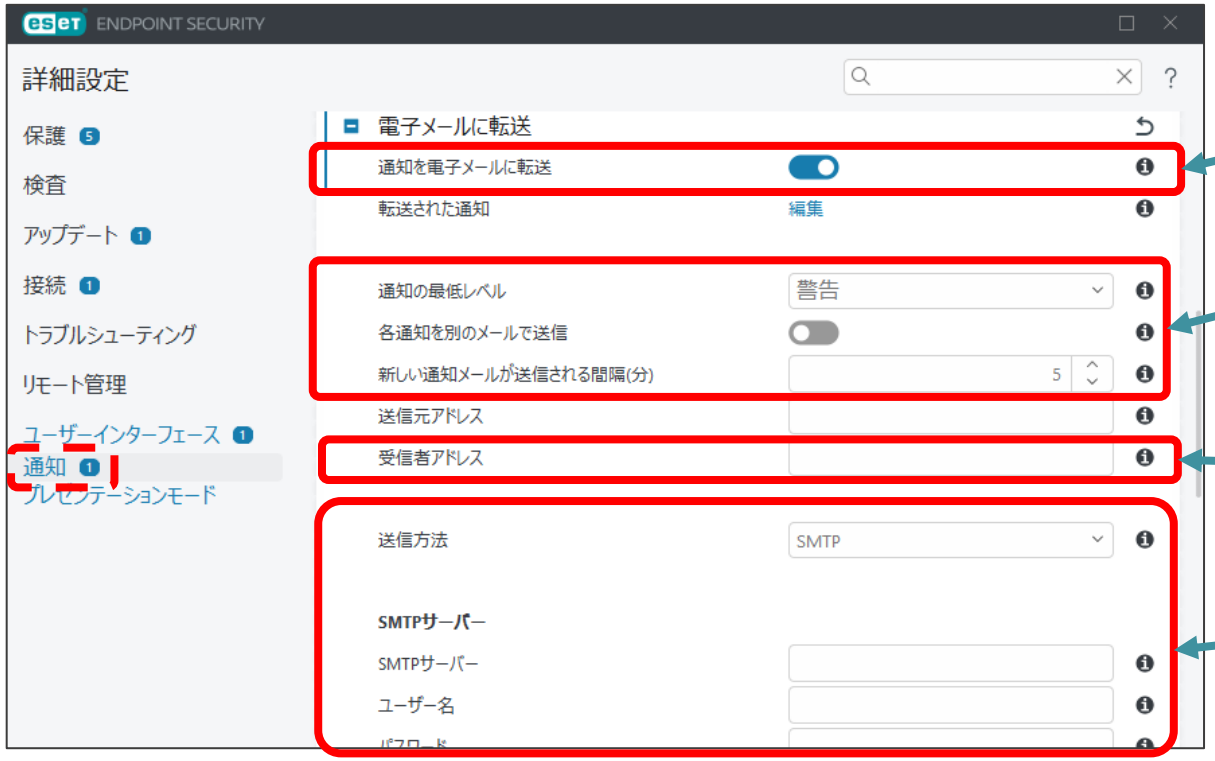
2-2-30. 電子メール通知

EES
EEA
ESSW

Cybersecurity
Progress. Protected.

電子メール通知を使用することで、各端末で「ウイルスを検出した」などのイベントが発生した際に、管理者にメールで通知することが可能です。これにより、ウイルス感染などの問題が発生した際に、素早く対処に取り掛かることが可能です。

詳細設定(転送画面)



電子メール通知機能を使用する場合はチェックを付けてください。

送信する通知のログレベルを設定します。
また、メールが送信される間隔も設定でき、間隔を「0」に設定することでリアルタイムでメールを受信できます。

受信者アドレスは「;(セミコロン)」で区切ることで複数登録可能です。

使用するSMTPサーバー名を入力します。
また、「SMTPサーバー名:ポート番号」と入力することでポートを指定することが可能です。
※既定では25番ポートを使用します。

3. プログラム別の機能比較

3. プログラム別の機能比較 (1/3)

機能名	EES			EEA			ESSW		
	V10.X	V11.X	V12.X	V10.X	V11.X	V12.X	V10.X	V11.X	V12.X
ウイルス・スパイウェア対策機能									
コンピューターの検査	○	○	○	○	○	○	○	○	○
WMIデータベースやシステムレジストリの検査	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ユーザーインターフェースからのドラッグアンドドロップ検査	○	○	○	○	○	○	○	○	○
スクリプトに基づく攻撃保護 ※1	○	○	○	○	○	○	○	○	○
リアルタイムファイルシステム保護	○	○	○	○	○	○	○	○	○
機械学習保護	○	○	○	○	○	○	○	○	○
UEFIスキャナー	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ESET LiveGrid ※2	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アイドル状態検査	○	○	○	○	○	○	○	○	○
OneDrive検査	×	×	×	×	×	×	○	○	○
Hyper-V検査	×	×	×	×	×	×	○	○	○
ホスト侵入防止システム(HIPS)	○	○	○	○	○	○	○	○	○
自己防衛機能	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アドバンスドメモリスキャナー	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エクスプロイトブロッカー	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※1 AMSIによるスクリプト保護はOSがWindows10以降、Windows Server 2016以降の場合に使用可能です。
※2 本機能を使用する以下機能が有効な状態で、ESET LiveGridが無効の場合 アラートが表示されます。(EES/EEA V12.1以降)
エクスプロイトブロッカー、HIPS詳細動作検査、ランサムウェア保護、ランサムウェア修復、セキュアブラウザ

3. プログラム別の機能比較 (2/3)

機能名	EES			EEA			ESSW		
	V10.X	V11.X	V12.X	V10.X	V11.X	V12.X	V10.X	V11.X	V12.X
ウイルス・スパイウェア対策機能									
ランサムウェア保護	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ランサムウェア修復	×	×	○	×	×	○	×	×	×
電子メール保護	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Webアクセス保護	○	○	○	○	○	○	○	○	○
暗号化通信の検査 (HTTPS・POPS・IMAPS)	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フィッシング対策機能	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ネットワーク通信関連機能									
ファイアウォール	○	○	○	×	×	×	×	○※	○※
迷惑メール対策	○	○	○	×	×	×	×	×	×
Webコントロール	○	○	○	×	×	×	×	×	○
セキュアブラウザー	○	○	○	×	×	×	×	×	×
バルナラビリティシールド	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ボットネット保護	○	○	○	○	○	○	○	○	○

3. プログラム別の機能比較 (3/3)

機能名	EES			EEA			ESSW		
	V10.X	V11.X	V12.X	V10.X	V11.X	V12.X	V10.X	V11.X	V12.X
アップデート・ミラーサーバー機能									
検出エンジンのアップデート	○	○	○	○	○	○	○	○	○
自動アップデート	○	○	○	○	○	○	○	○	○
オフライン更新機能	○	○	○	○	○	○	○	○	○
検出エンジンのロールバック	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ミラー機能	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他の機能									
設定のインポート・エクスポート	○	○	○	○	○	○	○	○	○
除外設定	○	○	○	○	○	○	○	○	○
自動除外	×	×	×	×	×	×	○	○	○
デバイスコントロール	○	○	○	○	○	○	○	○	○
デバイスコントロール - グループルールの追加	○	○	○	○	○	○	○	○	○
タイムスロット	○	○	○	○	○	○	○	○	○
プロキシサーバの設定	○	○	○	○	○	○	○	○	○
電子メール通知機能	○	○	○	○	○	○	○	○	○
パスワードによる保護	○	○	○	○	○	○	○	○	○
セキュリティ管理ツールでの管理 ※	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※ セキュリティ管理ツールによるクライアント管理には、ESET Managementエージェントの導入が必要です。

ESET技術資料アンケートについて

- いつもESET技術資料をご利用いただきありがとうございます。
  皆様からいただく貴重なご意見を反映し、資料のさらなる品質向上を図るため、
  ESET技術資料アンケートにご協力いただけますと幸いです。

  ※本資料以外の資料についてのご意見でも結構です。なお、すべてのご要望にお応えできかねる場合がございますので、あらかじめご了承くださいますようお願い申し上げます。

モバイルの方はこちらから

ESET技術資料アンケート

PCの方はこちらから